



題字 故前田和三郎名誉教授
発行所 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部
外科学教室同窓会(刀林会)
発行人 松本純夫

令和6年度 刀林会全員集会開催にあたって



理事長

松本 純夫 (52回)



慶應義塾大学医学部
外科(心臓血管)

木村 成卓 (79回)

令和6年度 刀林会全員集会を終えて

令和6年6月1日(土)明治記念館において令和6年度の全員集会を開いた。恒例の同窓会および教室の年間報告は予定通り行った。詳しくは議事録を参照されたい。

理事長として今回力を入れたのは、例年のような医学研究あるいは診療報酬等の厚労省に関わるような分野から離れた研究者からお話を聞くことにしたいということであった。異分野においても「異端と先導」を

野から離れた研究者からお話を聞くことにしたいということであった。異分野においても「異端と先導」を目標とする研究をされている方に講演をお願いすることにしました。

そこで今回は、東京大学先端科学技術研究センター動物言語学分野 鈴木俊貴研究室 准教授 東京大学

卓越研究員である鈴木俊貴(すずき としたか)先生にお願いした。略歴は1983年、東京都練馬区生まれ。幼少期から生き物に強い関心を持ち、将来動物学者になる夢をもっていた。2002年東邦高等学校卒業後、東邦大学理学部生物学科入学。大学3年生の時に、卒業論文のテーマを探しに軽井沢を訪れ、シジュウカラの多様な言葉に出会った。2006年3月に東邦大学卒業後、同大学院に進みシジュウカラの研究を深めていくが、シジュウカラの鳴き声が200パターン以上あり、単語を組み合わせて「言葉を使っている」ことを突き止めた。科学誌『Nature Communications』に発表された論文は、その週のベスト論文にも選出され、世界中から注目を浴びることとなった。2012年立教大学にて博士号(理学)を取得。その後、東京大学総合文化研究科助教、京都大学白眉(ハクビ)センター特定助教などを経て、2023年4月から東京大学准

教授に就任され、世界で初となる動物言語学の研究室を先端科学技術研究センターに立ち上げられた。フィールドワークは主として軽井沢と聞いていたが、通常の講演者の様にスーツ姿で現れるのではなく、カンカン帽をかぶり避暑地にびったりの軽装で登場された。聞けばフィールドワークを途中で中断して新幹線に乗ってきたとのことであった。卒業研究から現在に至るまで、シジュウカラやその仲間を対象にコミュニケーション(言語)の研究を続けているとのこと、さりげなく流したビデオを見てみると、

「今、チヂヂヂヂと鳴いたでしょ。シジュウカラが集まれば何が残ってるから、こつちに来て呼んでますね」ビデオでシジュウカラが集まってくる様子が流される。

「今、ヒヒヒヒと聞こえました? あれはコガラが『タカが来た』と言っています。それを聞いて、シジュウカラも藪(やぶ)のなかに逃げたでしょ。日本語と英語でダイレクトに会話しているような感じで、ほかの鳥も言葉を理解してるんです」「ヒヒヒ」で雀が一斉に逃げていくビデオを見せられて、聴衆一同唖然、共通言語の存在を共有した瞬間であった。

質問の時間となり、例年と異なり直ちに会員の手が挙がる。クジラやイルカも言語があつてコミュニケーションをとっているらしいとか、自分のペットとの意思疎通も可能とかの話など出る。スマホの翻訳アプリで言語コミュニケーションが容易となりIoTの進歩を実感している我らも、鈴木先生の研究が進めば、お互い動物同士なので異種間で言語コミュニケーションが取れるようになる未来を予感できる明るい時間となったことを申し上げたい。

令和6年6月1日(土)に本年度より場所を明治記念館に移し鳳凰の間にて令和6年度刀林会全員集会が開催されました。コロナによる影響もほぼなくなり、昨年に引き続き現地開催となりました。本年度も多くの先生方に参加していただき、盛大に会を開催することができました。

全員集会では、まず松本純夫理事長及び外科学教室主任の志水秀行教授から「年間報告」が行われました。続いて「各委員会報告」、「会計報告」、「学会支援募金のお願い」が例年通り行われました。「刀林表彰」では刀林賞(加藤悠人君(94回))及び刀林奨励賞(川合雄二郎君(90回)相当、若林大雅君(91回)相当)の「受賞報告」が行われました。現在米国留学中の川合君の報告は事前録画にて行われましたが、他の二名については現地で従来通り行われました。その後松本理事長より賞の授与が行われました。本年度も全員素晴らしい研究発表で、臨床研究及び基礎研究ともに選出されてお

り、外科学教室における研究体制の充実が感じられました。「新人紹介」では、関連病院から7名(一般・消化器外科3名、呼吸器外科3名、小児外科1名)、小児外科助教1名の計8名の新入会者、また101回・101回相当にあたる18名のD3新入室者の自己紹介がなされました。多くの先輩方の前で挨拶でしたが、今後は刀林会の一員として、外科医として頑張っていくという強い意気込みを皆さん表明しており、頼もしい限りでした。

時間が足りないほどでした。その後は恒例の集合写真撮影が行われ、懇親会へと場を移しました。本年度の参加会員は昨年より多い193名であり、写真撮影の際には幾重もの列で並ぶ壮大なもので、皆素晴らしい表情で写真が撮影されました。松本理事長の開会のご挨拶の後、船曳孝彦先生(40回)の乾杯のご発声で懇親会の開演となりました。本年度は新しい会場での開催となりましたが多くの会員の方にご参加いただき、大変賑やかに盛り上がりました。会の途中では熊本大学小児外科・移植外科の日比泰造教授(77回)より開催予定の研究会についてのご紹介を頂きました。懇親会の締めには佐藤永規君(101回)のエールにより「若き血」を全員で斉唱し、会場は一体感に包まれました。最後に小児外科の藤野明浩教授より閉会のご挨拶をいただき、盛会のうちに閉会となりました。来年度以降も多くの会員の皆様にご引き続き親睦を深めていただければと思います。



刀林会総会講演会 鈴木俊貴先生

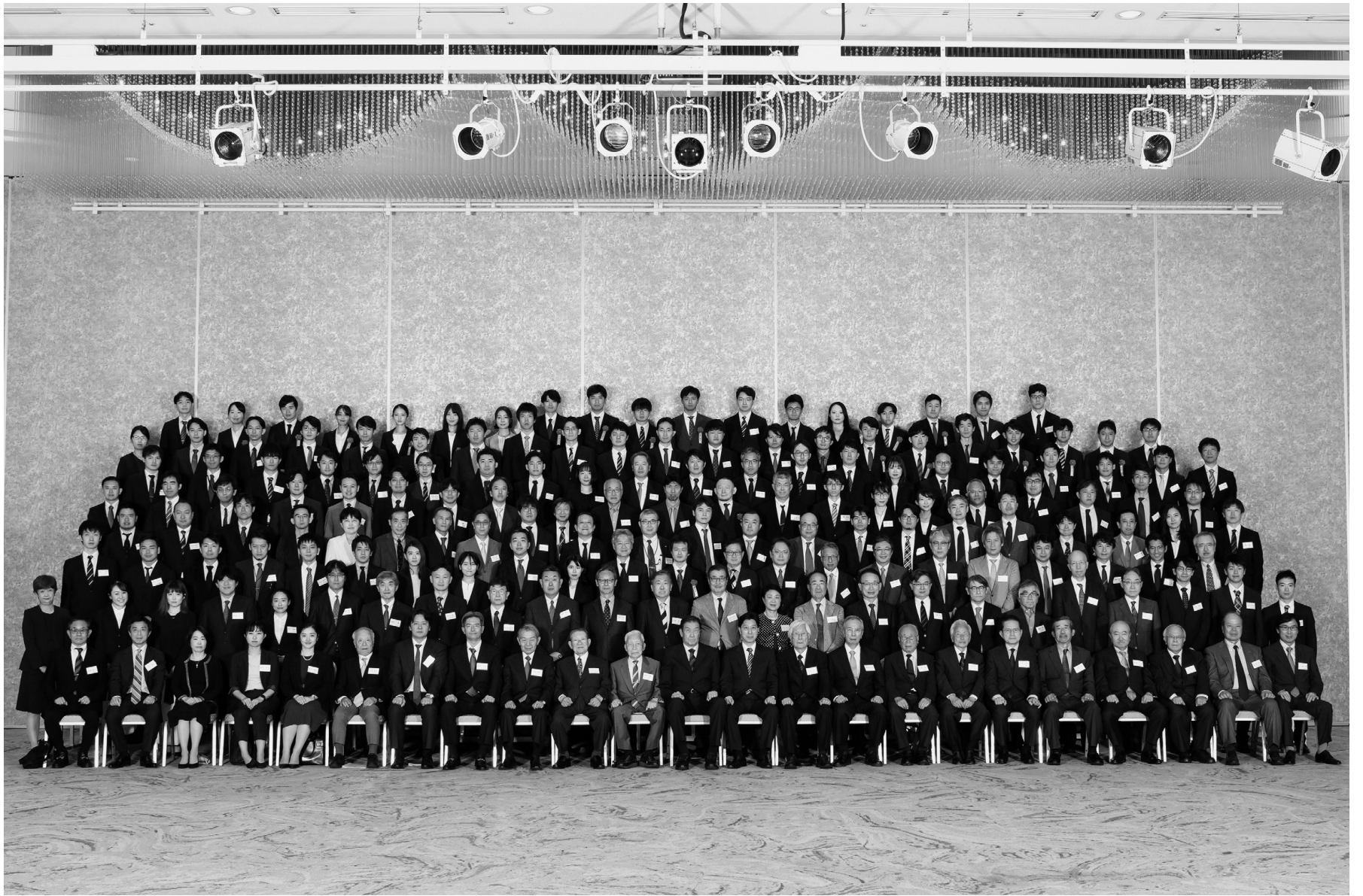
「今、ヒヒヒヒと聞こえました? あれはコガラが『タカが来た』と言っています。それを聞いて、シジュウカラも藪(やぶ)のなかに逃げたでしょ。日本語と英語でダイレクトに会話しているような感じで、ほかの鳥も言葉を理解してるんです」「ヒヒヒ」で雀が一斉に逃げ

「今、チヂヂヂヂと鳴いたでしょ。シジュウカラが集まれば何が残ってるから、こつちに来て呼んでますね」ビデオでシジュウカラが集まってくる様子が流される。

「今、ヒヒヒヒと聞こえました? あれはコガラが『タカが来た』と言っています。それを聞いて、シジュウカラも藪(やぶ)のなかに逃げたでしょ。日本語と英語でダイレクトに会話しているような感じで、ほかの鳥も言葉を理解してるんです」「ヒヒヒ」で雀が一斉に逃げ

「今、チヂヂヂヂと鳴いたでしょ。シジュウカラが集まれば何が残ってるから、こつちに来て呼んでますね」ビデオでシジュウカラが集まってくる様子が流される。

「今、ヒヒヒヒと聞こえました? あれはコガラが『タカが来た』と言っています。それを聞いて、シジュウカラも藪(やぶ)のなかに逃げたでしょ。日本語と英語でダイレクトに会話しているような感じで、ほかの鳥も言葉を理解してるんです」「ヒヒヒ」で雀が一斉に逃げ



令和6年度刀林会全員集会 集合写真

**令和5年度定時
社員総会議事録**

日時…令和6年6月1日
(土) 15:45から16:50
場所…明治記念館 1階芙蓉の間

出席社員数…全51名中44名
(33名現地出席 委任状11名) 敬称略

- 社員…幕内(49回) 安藤(50回) 松本(52回) 小島(55回) 窪地(58回) 小澤(60回) 古梶(63回) 北川(65回) 澤藤(67回) 河地(68回) 石井(70回) 齋藤(72回) 川久保(73回) 北郷(74回) 藤野(75回) 下島(76回) 秋山(77回) 岡林(78回) 松原(79回) 朝倉(81回) 高野(82回) 和田(84回) 茂田(85回) 田中(86回) 松田(87回) 庄司(88回) 今井(89回) 前田(90回) 竹内(91回) 水野(94回) 辻(95回) 神山(96回) 川本(98回) 理事…河瀬(49回) 島津(53回) 菅(61回) 志水(65回) 萬谷(75回相)
- 委任状による出席
笠島(51回) 松原(53回) 竹中(54回) 今野(57回) 黒田(61回) 浅村(62回) 長(69回) 原田(71回) 蛭川(92回) 阿部(93回) 方宇(97回)

陪席者
弁護士…堤健太郎弁護士
税理士…岡田泰税理士
第27回NSM 当番世話人 浦上秀次郎(74回、東京医療センター)
第84回日本脳神経外科学会 学術集會会長 戸田正博(66回、慶應義塾大学医学部脳神経外科教授)
第51回日本臓器保存生物医学会学術集會会長 河地茂行(68回、東京医科大学八王子医療センター教授)

国際親善病院副院長 佐藤道夫、国際親善病院 杉田篤紀、栃木医療センター 小林めぐみ、済生会宇都宮病院 塙龍太郎
同窓会係 木村(79回)、山田(81回)、加勢田(85回相) 事務担当…本間敬子
議長…松本純夫理事長

配布資料
1. 令和5年度刀林会 年間報告(資料1)
2. 2023年度教室年間報告(資料2)
3. 2024年度国際委員会報告(資料3)
4. 外科学教室新入室者報告(資料4)
5. 令和5年度財務諸表(資料5)
6. 令和6年度事業計画・予算(資料6)
7. 令和5年度刀林賞一覧(資料7)
8. 刀林会規則変更の対照表(資料8)
9. 各学会支援募金資料(資料9)
10. 入会希望者一覧(資料10)

11. 事務局収支 10年間の推移
12. 外科学教室 100周年事業 会計報告

議事の経過の要領及びその結果…以下の通りである。

定刻になり、松本純夫理事長が刀林会社員総会の開催を宣した。定款23条に基づき社員総会の開催及び決議に必要な定足数を確保していることが確認され、本総会が適法に成立した旨を告げた。続いて、定款21条の規定に則り、松本純夫理事長が議長に就任し、以後の議事進行を務めた。

報告事項
1 同窓会年間報告の件(資料1)
議長より、資料1に沿って説明がなされた。

2 教室年間報告の件(資料2)
議長の指名により、志水秀行教室主任より資料2に沿って説明がなされた。教室幹事は尾原秀明から岡林剛史に変更となった。来年度の人事としては、チーフレジデント計16名の出向が決まっている。

3 委員会報告の件
議長の指名により、各委員会について、以下の通り説明があった。

(1) 国際委員会(資料3)
八木洋委員長より資料3に沿って説明があった。阿部総大、林航輝の2名が2023年度三橋記念国際交流基金による助成を受けた。

(2) 広報委員会
石井良幸理事より第12号、122号刀林の発刊を中心とした本年の活動につき報告があった。今後、刀林新聞への広告や投稿事項があれば受諾する方針となった。

(3) 刀林賞選考委員(資料7)
島津元秀理事より資料7に沿って説明があった。今回5編の応募があったが、審議の上、加藤悠人、川合雄二郎、若林大雅の3名の受賞が決定した。今後の選考にあたり、インパクトファクターについて最新の記載を参照する方針となった。

(4) 財務委員会(資料5)
小澤壯治理事より決議事項にて説明の方針となった。

(5) 学会支援募金委員会
松本純夫理事長より、河内茂行より第51回日本臓器保存生物医学会学術集會における寄付の提案があり、理事会で承認となったと報告があった。

4 新入室者報告(資料4)
志水秀行教室主任より新入室者、101回および101回相当の入局者の説明があった。新入室者6名の自己紹介があった。

決議事項
第1号議案 令和5年度事業報告承認の件
議長が上記報告事項1にて説明された報告内容について議場に諮ったところ賛成多数にて承認となった。

第2号議案 令和5年度計算法承認の件(監査報告)
議長の指名により、小澤壯治理事・熊井浩一郎監事から資料5に記載された内容及び金額は記載の通り相違ないことが説明された。議長が説明された内容について議場に諮ったところ賛成多数にて承認となった。

第3号議案 令和6年度事業計画 予算案承認の件
小澤壯治財務委員長より令和6年度事業計画及び予算について資料6に沿って説明がなされた。議長が説明された内容について議場に諮ったところ、賛成多数にて承認となった。

第4号議案 令和5年度刀林賞選定の件
議長は報告事項3(3)にて説明された報告内容について、その承認を求めたところ、賛成多数にて承認と

決議事項
第1号議案 令和5年度事業報告承認の件
議長が上記報告事項1にて説明された報告内容について議場に諮ったところ賛成多数にて承認となった。

第2号議案 令和5年度計算法承認の件(監査報告)
議長の指名により、小澤壯治理事・熊井浩一郎監事から資料5に記載された内容及び金額は記載の通り相違ないことが説明された。議長が説明された内容について議場に諮ったところ賛成多数にて承認となった。

第3号議案 令和6年度事業計画 予算案承認の件
小澤壯治財務委員長より令和6年度事業計画及び予算について資料6に沿って説明がなされた。議長が説明された内容について議場に諮ったところ、賛成多数にて承認となった。

第4号議案 令和5年度刀林賞選定の件
議長は報告事項3(3)にて説明された報告内容について、その承認を求めたところ、賛成多数にて承認と

なった。

第5号議案 刀林賞規則変更の件

島津元秀理事より資料8に沿って刀林賞規則変更事項の説明があった。議長が議場に諮ったところ賛成多数にて承認となった。

第6号議案 学会支援募金承認の件

山一朗 第97回日本胃癌学会 宇山一朗 第51回日本臓器保存生物医学学会術集会 河内茂行 第84回日本脳神経外科学会総会 戸田正博 第27回Needle Surgery Meeting 浦上秀次郎

議長が議場に上記の4学会に於いて決を取った結果賛成多数にて学会支援募金活動が承認となった。

第7号議案 刀林会新入会者の件

報告事項4について議長が議場に諮ったところ賛成多数により承認となった。

第8号議案 その他

1)事務局収支10年間の推移について 小澤壯治財務委員長より資料11に基づいて説明がなされた。2019年より学会支援募金と学会支援寄付金を除いた財政状況が赤字に転じ、昨年度は339万円の赤字であった。今後財政破綻の可能性もある。2019年以後の法人化による運営管理費の増加、消費者物価の上昇や総会会場の価格高騰などが原因と考えられる。支出に関しては総会補助費を減らすことが必要であり、そのためには総

会参加費の値上げ1500円、18000円、卒後10年までの会員は5000円、8000円の増額が望ましいかと考えられる。現在の会費は7000円、納入率は71%である。慶應病院の他科の同窓会年会費を参照しても年会費10000円への増額が妥当であると思われる。会費未納入の会員への督促も行なっていく。また、会費の自動引き落としによる会費納入も検討している。以上より、次回からの総会参加費の増額(15000円、18000円)と年会費の増額(7000円、10000円)することについて、賛成多数により承認となった。

以上本日の社員総会は、終始異状なく議題の審議を終了したので、議長は以上をもって本日の議事は終了した旨を述べ、16時50分閉会を宣し、解散した。

以上社員総会の議事の経過並びに決議を明確にするため、議事録を作成し、議長と議事録署名人古梶清和と前田祐助がこれに記名押印する。

令和6年6月1日

議事録署名人 古梶清和 前田祐助

報告 茂田浩平理事より資料12に基づいて説明がなされた。2018年から2023年までの収入は8463万。支出は6763万で内訳はProcessをはじめとした内視鏡トレーニングプログラムや第120回外科学会と

残金は本年度から大学で研修を開始したD3の先生方へのトレーニングプログラムの提供などを検討している。

〈その他・質問事項〉

議長より、本日の議事をまとめるにあたり、議事録署名人2名を選任すること

を諮り、古梶清和、前田祐助の両氏を選任することを全員異議なくこれを承認した。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第3号議案 令和6年度事業計画承認の件

松本理事より、令和6年度事業計画案の説明が行われた。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第4号議案 令和6年度予算承認の件

財務委員会小澤委員長より、令和6年度予算案の説明が行われた。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第5号議案 刀林賞規則改定の件

刀林賞選考委員会島津元秀委員長は、インパクトファクターは年により変動するものであること、また、選考委員の専門でない領域の論文を評価する場合があることから、応募条件を資料5の通り変更する内容の規則の変更を提案した。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第6号議案 学会支援募金の件

河池茂行東京医科大学八王子医療センター教授(68回)は、第51回日本臓器保存生物医学学会術集会について、250名程度の規模を予定している。収支については資料6に記載の通りであること、説明の上、支援を依頼した。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第7号議案 新入会希望者4名の件

議長は、入会希望者として、那須赤十字病院の川口英之、石井智の各氏を紹介した。

議長の指名により、入会希望者の国際親善病院の杉田篤紀氏について、国際親善病院佐藤道夫先生より推薦の挨拶、その後、杉田氏本人より挨拶がなされた。

続いて、藤野理事より、入会希望者として慶應義塾大学医学部外科学教室(小児)の出口晴教氏の推薦の挨拶がなされた。

次いで、議長は、以上の4氏の入会の賛否を議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

第8号議案 収支改善への対策

財務委員会小澤委員長より資料8を以て以下の通り説明がなされた。

2019年より学会支援募金と学会支援寄付金を除いた財政状況が赤字に転じ、昨年度は339万円の赤字であった。今後財政破綻の可能性もある。2019年以後の法人化による運営管理費の増加、消費者物価の上昇や総会会場の価格高騰などが原因と考えられる。

支出に関しては総会補助費を減らすことが必要であり、そのためには総会参加費の値上げ15000円、18000円、卒後10年までの会員は5000円、8000円への増額が望ましいかと考えられる。

現在の会費は7000円、納入率は71%である。慶應 他科の同窓会年

会費を参照しても年会費10000円への増額が妥当であると思われる。会費未納入の会員への督促も行なっていく。また、会費の自動引き落としによる会費納入も検討している。以上より、次回からの総会参加費の増額(15000円、18000円)と年会費の増額(7000円、10000円)を提案する。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第2号議案 令和5年度計

算書類承認の件

財務委員会小澤委員長より、令和5年度財務諸表の報告が行われた。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第1号議案 令和5年度事業報告承認の件

松本理事長より、資料1をもとに令和5年度年間報告が行われた。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第1号議案 令和5年度事業報告承認の件

松本理事長より、資料1をもとに令和5年度年間報告が行われた。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第2号議案 令和5年度計

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第7号議案 新入会希望者4名の件

議長は、入会希望者として、那須赤十字病院の川口英之、石井智の各氏を紹介した。

議長の指名により、入会希望者の国際親善病院の杉田篤紀氏について、国際親善病院佐藤道夫先生より推薦の挨拶、その後、杉田氏本人より挨拶がなされた。

続いて、藤野理事より、入会希望者として慶應義塾大学医学部外科学教室(小児)の出口晴教氏の推薦の挨拶がなされた。

次いで、議長は、以上の4氏の入会の賛否を議場に諮ったところ、全員一致で承認された。

第8号議案 収支改善への対策

財務委員会小澤委員長より資料8を以て以下の通り説明がなされた。

2019年より学会支援募金と学会支援寄付金を除いた財政状況が赤字に転じ、昨年度は339万円の赤字であった。今後財政破綻の可能性もある。2019年以後の法人化による運営管理費の増加、消費者物価の上昇や総会会場の価格高騰などが原因と考えられる。

支出に関しては総会補助費を減らすことが必要であり、そのためには総会参加費の値上げ15000円、18000円、卒後10年までの会員は5000円、8000円への増額が望ましいかと考えられる。

現在の会費は7000円、納入率は71%である。慶應 他科の同窓会年

会費を参照しても年会費10000円への増額が妥当であると思われる。会費未納入の会員への督促も行なっていく。また、会費の自動引き落としによる会費納入も検討している。以上より、次回からの総会参加費の増額(15000円、18000円)と年会費の増額(7000円、10000円)を提案する。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第2号議案 令和5年度計

算書類承認の件

財務委員会小澤委員長より、令和5年度財務諸表の報告が行われた。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第1号議案 令和5年度事業報告承認の件

松本理事長より、資料1をもとに令和5年度年間報告が行われた。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第1号議案 令和5年度事業報告承認の件

松本理事長より、資料1をもとに令和5年度年間報告が行われた。

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第2号議案 令和5年度計

議長はこれを議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

臨時理事会議事録

理事会の決議があったものとみなされた日

令和6年9月17日

理事会の決議があったもの

とみなされた事項の提案者

代表理事 松本純夫

議事録の作成に係る職務を行った理事

代表理事 松本純夫

理事総数 22名

監事総数 2名

理事総数 22名

臨時理事会議事録

理事会の決議があったものとみなされた日

令和6年9月17日

理事会の決議があったもの

とみなされた事項の提案者

代表理事 松本純夫

議事録の作成に係る職務を行った理事

代表理事 松本純夫

理事総数 22名

監事総数 2名

理事総数 22名

令和5年度収支計算書総括表

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	合計	一般会計	刀林基金	備考
I 収入の部				
①事業収入				
学会支援募金収入	791,000	791,000	0	
②会費収入	5,806,000	5,806,000	0	
③広告収入	350,000	350,000	0	
④受取利息	136	38	98	
⑤寄付金収入	0	0	0	
⑥雑収入	7,650	7,650	0	
当期収入合計(A)	6,954,786	6,954,688	98	
前期繰越収支差額	27,063,011	15,018,754	12,044,257	
収入合計(B)	34,017,797	21,973,442	12,044,355	
II 支出の部				
1. 事業費				
①「刀林」発行費	1,265,969	1,265,969	0	
②総会補助	1,932,929	1,932,929	0	
③刀林賞賞金	700,000	0	700,000	
③学会支援寄付金	5,085,000	5,085,000	0	
事業費計	8,983,898	8,283,898	700,000	
2. 管理費				
①人件費	2,684,481	2,684,481	0	
②通信連絡費	453,192	453,192	0	
③印刷発送費	422,662	422,662	0	
④会合費	56,000	56,000	0	
⑤慶弔費	398,165	398,165	0	
⑥運営管理費	1,437,150	1,437,150	0	
⑦雑費	908,246	908,246	0	
管理費計	6,359,896	6,359,896	0	
当期支出合計(C)	15,343,794	14,643,794	700,000	
当期収支差額(A)-(C)	△ 8,389,008	△ 7,689,106	△ 699,902	
次期繰越収支差額(B)-(C)	18,674,003	7,329,648	11,344,355	

令和5年度一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会(刀林会)

会計監査報告

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

令和5年度一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会(刀林会)

収支決算報告書、財産目録に記載された内容及び金額は記載の通り相違ありません。

令和6年 5 月 22日

一般社団法人慶應義塾大学医学部外科学教室同窓会(刀林会)

監事 能井浩一郎 監事 尾原秀明 

院長退任

北里大学北里研究所病院
院長退任にあたり



北里大学名誉教授
渡邊 昌彦 (58回)

この度、6月30日をもって北里大学北里研究所病院(北研)を退職いたしました。在職中、刀林会の皆様には長年にわたりご厚情を賜り、紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

北里研究所病院の前身は1893年に北里柴三郎博士の伝染病研究所に併設されたつくしが丘養生園であります。福沢諭吉先生のご援助でわが国初のサナトリウムとして財を成し、北里研究所創立の礎となり、塾医学部創立と同年1917年に北里研究所付属病院として改組されました。このように当院は塾医学部と100年以上の間、緊密に連携してまいりました。

た、一貫して北研の外科は刀林会の諸先輩方によって支えられてまいりました。この歴史と伝統ある北里研究所病院の院長を羨無く終えることができ、今は安堵しておる次第であります。私は2003年に慶應義塾大学外科学教室から北里大学外科学の3代目の主任

教授として赴任しました。2007年に北里研究所病院の内視鏡手術センター長を併任してからは、慶大外科から出向してきた研修医と、多くの内視鏡外科手術を手掛けることができました。お世辞抜きで、慶大外科の研修医が本当に優秀かつ真面目で驚きました。今では、皆さんそれぞれの分野で大活躍している姿を見て喜ばしい限りです。

2015年には診療担当の副院長を拝命、2018年には院長を拝命し1年間は二足の草鞋を履くことになりました。院長就任早々には石井良幸君(外科学教授70回)に診療担当副院長に就いてもらい、片腕として最後まで彼の剛腕に頼ってきました。北研は一般診療部、研究部、検診事業部の3部門からなり相補的に財務を安定化させてきました。しかし就任当初、北研は来院患者数の減少、臨床試験の受注減少、検診事業の低迷に陥っており、財務の窮状を目の当たりにし

教授就任

防衛医科大学校教授退任および
鶴見大学教授就任の御挨拶



田口 眞一 (63回)

私は本年3月末に防衛医科大学校外科学講座(心臓・血管、呼吸器)教授および同大学校病院外科部長を65歳で定年退官しました。医師としての40年間で防衛医科大学校は最も長く勤務した施設となりました。10年前に慶應義塾大学専任講師から四津良平教授のご高配をいただき、教授として就任できた事に深く感謝しています。

最後の6年間は消化器外科、乳腺外科を含めた外科全体の部長を拝命し、外科同門会会長職を務める事もできました。防衛医大では最年長の現役教授が会長となるためです。新型コロナウイルスのために諸行事を十分行う事ができない時期もありましたが、無事に会長職を次の方に交代しました。

教育では、自衛隊医官にとっても大切である心臓血管外科、呼吸器外科を学生や研修医に伝えられる環境を整えるべく努力しました。臨床では、心臓血管外科専門医認定機構の基幹施設の

継続を最優先として果たす事ができました。卒業生が心臓血管外科専門医になる為には最低限必要な立場です。研究では、自らの課題としてきた心臓血管腫瘍研究を継続し、深める事ができました。特に悪性心臓腫瘍の特徴を平成30年にまとめて総説としてGen Thoracic Cardiovasc Surgに発表した論文は約45の欧文論文に引用していただく事ができました。また、多くの全国学会で座長を拝命し、各地の心臓血管外科教授に友達と言える存在ができたのも私にとっては財産となりました。

退官後の4月から9月までは「無所属」となり、医療行為から遠ざかる日々を送りました。自衛隊の規定で退職に引き続く再就職手続きが煩雑であったためです。6か月間は医師になつて初めて自宅中心の生活を送りました。こんなにも朝から夕方まで時間が経つのが早いのかと驚くとともに、家族と過ごす時間が増えて

生活を楽しむゆとりができた事は有難かったです。10月からは横浜の鶴見大学歯学部内に内科学教授として就任しました。志水秀行教授のご高配によって拝命した立場です。鶴見大学は隣接する禅宗の曹洞宗大本山の總持寺が母体で、歯学部内には内科として内科と眼科があります。循環器を中心とした内科外来診療と学生教育が主な任務です。刀林会でご指導いただいた外科的な考え方や知識を今後も生かす事ができれば有難く思います。鶴見大学では定年退官まで1年半、更には特任教授として数年の勤務を予定しています。末筆となりますが、刀林会会員諸氏のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げます。

血液凝固阻止剤
アコアラン® 600 静注用1800
600国際単位、1800国際単位/バイアル
ACOALAN Injection アンチトロンピン ガンマ(遺伝子組換え)静注用

※効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報については電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元
協和キリン株式会社
東京都千代田区大手町1-9-2

販売元
一般社団法人
JB 日本血液製剤機構
東京都港区芝浦3-1-1

ACQ-202410

【文献請求先及び問い合わせ先】
日本血液製剤機構 くすり相談室 〒108-0023 東京都港区芝浦3-1-1 医療関係者向け製品情報サイト <https://www.jbpo.or.jp/med/d/>

抗悪性腫瘍剤
劇薬、処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

ロンサーフ® 配合錠 T15
Lonsurf® combination tablets
トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合錠

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等は電子添文をご確認ください。

製造販売元 **TAIHO**
大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 <https://www.taiho.co.jp/>

2023年5月作成

学会紹介

第97回日本胃癌学会総会

第97回
THE 97TH ANNUAL MEETING OF THE JAPANESE GASTRIC CANCER ASSOCIATION
日本胃癌学会総会
会長 宇山 一郎
藤田医科大学 先端ロボット・内視鏡手術学講座
2025/3/12(水)・14(金)
会場 名古屋コンベンションホール
同時開催 2024/7/16(水)・9/2(金)
胃癌学の
DIGITAL INNOVATION
同時開催 第9回日本ハンガリー・ポーランド外科学会
主催 藤田医科大学 先端ロボット・内視鏡手術学講座
協賛 日本小児外科学会 日本小児外科学会 日本小児外科学会 日本小児外科学会
協賛 日本小児外科学会 日本小児外科学会 日本小児外科学会 日本小児外科学会

2025年3月12日から14日にかけて、第97回日本胃癌学会総会を名古屋コンベンションホールにおいて開催する運びとなりました。本総会は、長い歴史と伝統を誇る学会であり、刀林会の一員としてこのような重要な場を主催させていただくことは、私にとって大変光栄なことです。この貴重な機会をいただけたことに深く感謝申し上げます。同時に、学会を充実した内容にするため全力を尽くしてまいります。

今回の総会のテーマは「胃



藤田医科大学医学部
先端ロボット・
内視鏡手術学講座主任教授
宇山 一郎 (64回相)

癌学の Digital Innovation」といたしました。近年、医療分野ではAI(人工知能)診断、ロボット手術、メタバースなどのデジタル技術が飛躍的な進展を遂げています。これらの技術革新は、医療の多岐にわたる領域に影響を及ぼし、特に胃癌診療においては大きな変革をもたらしています。本総会では、これらデジタルイノベーションが胃癌診療に与える影響を深く掘り下げ、その実践的な応用や未来の治療方針を中心に議論を行う場としたいと考えております。

本総会には、外科医、内科医、病理医など、胃癌診療に関連するさまざまな専門家が一堂に集い、最新の研究成果を共有し、議論を交わします。最新の臨床研究や技術進歩に関する発表は、参加者にとって新たな知見やインスピレーションを提供する機会となることでしょう。また、こうした学術交流を通じて、新しい治療法や診断技術の導入が推進され、参加者の知識がより一層深まり、専門家同士のネットワークが広がることを期待しております。

今回の学会開催にあたり、慶應義塾大学外科学同門会(刀林会)の先生方から多大なご支援と寄付金を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。皆様のご支援があったからこそ、質の高い学術交流の場を実現するための準備を整えることができました。このような支えがあったからこそ、今回の学会が単なる会合を超えて、未来の医学を形成する一歩

第62回日本小児外科学会学術集会
会長を拜命して

第62回
日本小児外科学会
学術集会
会場 一橋大学 一橋講堂
会期 2025年 6月5日(木)〜7日(土)
会長 浮山 越史
杏林大学医学部 小児外科学教室 教授
天に星、地に花、人に愛
〜きみの想いを子どもたちのために〜
http://jpsa62.admin.jp/

このたび、第62回日本小児外科学会学術集会を2025年6月5日(木)から7日(土)に、東京都千代田区一ツ橋の一橋大学一橋講堂で開催させていただきます。杏林大学小児外科は1994年に講座となり、30周年を迎えました。当教室にとりましては初めての開催であり、大変名譽なことであり光栄に存じます。日本小児外科学会学術集会の開催は、刀林会会員では第17回秋山洋先生、第22回勝保慶三先生、第38回佐伯守洋先生、第41回今



杏林大学医学部
小児外科教授
浮山 越史 (65回)

村洋二先生、第44回森川康英先生、第49回上野滋先生、第58回黒田達夫先生に続き、8人目になります。

今回のテーマは「天に星、地に花、人に愛」とさせていただきます。この言葉は杏林大学の近くに邸宅跡の公園・記念館がある、武者小路実篤が色紙に揮毫していたものです。「愛」は医療の基本であり、病気の子どもたちにとっても一番必要なことと思います。副題として「きみの想いを子どもたちのために」とさせていただきます。

特別講演は日本の医学会の著名な先生がたに「これからの医学と小児外科」に関するご講演いただく予定です。参議院議員・66回の古川俊治先生、国際医療福祉大学学長/WHO執行理事・63回の鈴木康裕先生、慶應義塾大学医学部外科学教授・65回の北川雄光先生、日本医師会常任理事・65回の黒瀬巖先生、日本小児科学会理事・岡明先生、アステラス製薬株式会社代表取締役会長・安川健司さんです。文化公演はフジテレビプロデューサーの金城綾香さんをお願いしています。

長引くコロナ禍や戦争、震災により、不安な日々が続いています。コロナ禍が落ち着き、戦争が終わり、震災から復興し、こども家庭庁による少子化対策が効果を奏することを願っております。人々が子どもを産み、育てたいと思った時に小児外科の役割はますます重要になると考えます。小児外科は小児医療にとって必要不可欠であり、より高度化、専門化していく医療の中で子どもたちや家族に寄り添った医療である必要があります。「天に星、地に花、人に愛」の精神と共に学術集会を開催し、小児外科の発展を期するものであります。

つきましては、上記の趣旨にご理解とご賛同をいただき、第62回日本小児外科学会学術集会開催へのお力添えを是非とも賜りますようお願い申し上げます。

第15回国際胃癌学会 会計報告書

●第15回国際胃癌学会 (IGCC 2023) 会計報告書

■収入

項目	0	単位	金額
I 参加費収入	1,082	名	¥42,710,557
II 広告費収入	10	社	¥1,540,000
III 展示収入	18	枠	¥17,084,500
IV 共催セミナー収入	21	社	¥58,600,000
V 寄付・助成金	1	式	¥24,997,000
VI その他(利息等)			¥284
合計			¥144,932,341

■支出

項目	合計
1. 旅費交通費	623,059
2. 通信費	156,908
3. 事務局人件費	26,905,754
4. 接遇関係・旅費交通費	31,556,509
5. 制作費・印刷費	3,563,880
6. 会場関係費	32,876,700
7. 映像機材費・システム関係費	21,321,384
8. 施工関係費	5,673,624
9. 当日運営要員関係費	5,335,854
10. 飲食・会合・行催事関係費	13,481,051
11. 諸雑費	383,140
12. 納税・会計処理費	3,054,478
合計	¥144,932,341

寄付金収入のうち
刀林会学会支援募金 350万円

第35回日本肝胆膵外科学会 収支計算書

第35回日本肝胆膵外科学会・学術集会

収支計算書

(自令和5年6月30日 至令和5年7月1日開催)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
参加費収入	31,600,000	給与手当	2,155,000
プログラム集収入	12,000	業務委託費	15,226,786
広告料収入	1,705,000	機器賃借料	20,026,790
商業展示収入	11,066,000	備品・消耗品費	4,095,663
セミナー企業共催収入	70,235,000	システム運営・構築費	1,013,650
寄附金収入	5,075,000	宿泊・旅費交通費	16,346,837
学会本部からの準備金	5,300,000	諸謝金	1,156,566
雑収入	170	関連行事開催費	4,889,103
		通信費	1,519,791
		表彰関係費	1,260,000
		印刷製本費	12,910,684
		会議費	1,463,650
		会場費	33,413,532
		会計顧問料	715,000
		租税公課(法人税等準備金)	1,783,700
		雑費	1,126,771
		学会本部準備金の返金(注)	5,300,000
		支出小計	124,403,523
		収支差額(注)	589,647
収入合計	124,993,170	支出合計	124,993,170

(注)学会本部準備金の返金5,300,000円に公租公課1,783,700円及び収支差額589,647円を加算した7,673,347円を、一般社団法人日本肝胆膵外科学会に送金いたします。

第35回日本肝胆膵外科学会・学術集会

会長 田邊 稔

寄付金収入のうち
刀林会学会支援募金 158万5000円

令和5年度「刀林賞」 選考結果報告



刀林賞選考委員会 委員長
医療法人社団幸隆会
多摩丘陵病院 名誉院長
島津 元秀 (53回)

令和5年度刀林賞には5篇の論文の応募があった。今回の刀林賞選考委員会は令和6年3月14日にweb形式で開催し、10名の出席を得て成立した。事前に12名の選考委員に投稿論文を送り、全員から詳細な査読評価を頂き評価表の集計結果を基に審議を行った。

その結果、最も評価点数が高かった加藤悠人君(94回)の論文「Comprehensive risk score of the E-PASS as a prognostic indicator for patients after elective and emergency curative colorectal cancer surgery: A multicenter retrospective study/International Journal of Surgery 2022 掲載」が刀林賞候補として挙がり、慎重審議の結果、刀林会刀林賞に推薦された。本研究は慶應義塾大学一般・消化器外科と関連病院を合わせた5施設による多施設共同研究で、2407例という多数のデータベースを用いて「E-PASSのcomprehensive risk score(CRS)」と大腸癌根治切除後の予後との関連を検討し、CRSは術後合併症や死亡率の予測因子のみならず、病期に関係なくOSおよびRFSの独立

した予後因子であることを初めて明らかにした。刀林会奨励賞についてはいずれも質の高い論文が多中、最終的に若林大雅君(91回相当)と川合雄二郎君(90回相当)の2名が推薦された。若林論文「Laparoscopically limited anatomic liver resections: A Single-center analysis for oncologic outcomes of the conceptual procedure/Annals of Surgical Oncology 2023 掲載」は慶應外科関連病院の中で行われた肝細胞癌および大腸癌肝転移に対する腹腔鏡下実質温存解剖学的肝切除(Lap-LAR)の術後長期成績を検討した臨床研究である。当施設では3DシミュレーションとICG蛍光法を用いてLap-LARの手法を確立し、すでに良好な短期成績を報告しているが、本研究では長期成績も良好であることを明らかにした。川合論文「Scaffold-free tubular engineered heart tissue from human induced pluripotent stem cells using bio-3D printing technology in vivo/Frontiers in Cardiovascular Medicine 2022 掲載」はバイオ3D

プリンターを用いて管状心筋構造体を作成し、それが自発収縮能を有することを確認し、さらにNOGマウスに移植して機能的、組織学的に長期生着したことを認めた。末期心不全に対する再生医療として臨床応用に向けては解決すべき課題はあるが、夢のあるユニークな研究であることが評価された。今回の選考結果は令和6年3月28日の理事会および6月1日の令和5年度定時社員総会での審議を経て、最終的に承認された。なお、選考委員会では次回からの応募に際して、インパクトファクター(IF)は最新のものを記載すること、IF以外にも当該雑誌のカテゴリーとカテゴリー内ランクを記載すること、などが提案され、理事会および社員総会の議を経て刀林賞規則および応募用紙が変更された。ただしIFのみならず、作成過程における研究環境や努力なども評価する選考方針であり、幅広い施設から多数の応募を期待している。

この度は、刀林会刀林賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。日頃より御指導いただきありがとうございます。北川雄光教授、岡林剛史先生、本研究の御指導を賜りました茂田浩平先生およびデータ収集にご尽力頂きました関連施設の先生方に厚く御礼申し上げます。また、このような歴史ある賞に選出をいただきましたこと、刀林会の先生方に深く御礼申し上げます。この度私が受賞いたしました論文は、腸班が中心となり、関連施設と協力して作成した多施設共同データベースを用いております。本研究では、大腸癌術後の患者予後において「Estimation of Physiologic Ability and Surgical Stress (E-PASS)」のスコアの1つである「comprehensive risk score (CRS)」の有用性を検討致しました。術前の臨床的因子と手術因子の両方に基づいて算出されるCRSは、術後合併症や死亡率の良い予後因子として知られておりますが、大腸癌患者の予後における有用性は明らかではありませんでした。5施設より集められた、2010年から2019年の間

に根治切除を受けた患者2407例を低CRS群(1359例)と高CRS群(1048例)に分けて検討しております。多変量解析の結果、CRSは病期に関係なく、全生存率および無再発生存率の独立した予後因子であることがわかりました(共にp<0.001)。さらに、術後補助化学療法におけるCRSの有用性についても検討を行ったところ、75歳以上の高齢者Stage III大腸癌患者において、高CRS群では術後補助化学療法の効果は限定的でありました(p=0.033)。以上のように、CRSは病期に関係なく大腸癌術後患者の強い予後因子であり、術後補助化学療法の対象となる高齢患者を選択するためのバイオマーカーとなりうることを報告いたしました。大腸癌術後患者において採血の炎症所見や血球分画などの臨床的因子が予後に与える影響に関する報告は多くある一方、手術因子と併せた検討はあまり多くありません。今回我々が着目したE-PASSでは、術前患者因子と手術因子の両方に基づいて算出されており、これまでの報告に比べて、

手術因子を加えることによりさらに正確な予後予測が可能となることを示すことができました。また、単施設での解析では、解析手法や得られる結果が限定的となりませんが、慶應および関連施設の多施設共同データベースを用いたことでこの弱点を克服し、より正確な結果に結びつけることができました。改めてご協力をいただいた先生方に感謝を申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。この度の受賞を励みとさせていただきます。なお一層、臨床および研究活動に精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。受賞論文は「Scaffold-Free Tubular Engineered Heart Tissue From Human Induced Pluripotent Stem Cells Using Bio-3D Printing Technology in vivo.」(Frontiers in Cardiovascular Medicine 2022年掲載)です。本研究では、心疾患に対するヒトiPS細胞由来心筋細胞を用いた再生治療を目指すべく、バイオ3Dプリンタを用いて管状心筋構造体を作成し、移植実験を行いました。まず初めにヒトiPS細胞を分化誘導し、さらにmetabolic selectionを行うことによりヒトiPS細胞由来純化心筋細胞を作成しました。ヒトiPS細胞由来純化心筋細胞と臍帯静脈内皮細胞、線維芽細胞

をMix cultureし、球状心臓オルガノイドを作成したのち、それらを剣山状のニードルアレイにバイオ3Dプリンタを用いて積層し、管状心臓構造体を作成しました。作成した管状心臓構造体は自発収縮能を有しており、それをNOGマウスの腹部大動脈周囲に移植し、それをNOGマウスの腹部大動脈周囲に移植した管状心臓構造体が生着しており、さらに自発拍動能を有していることが確認されています。iPS細胞を用いた移植治療の研究は多く行われてきましたが、バイオ3Dプリンタを用いて立体構造体を作成し、さらに移植したものが生着し、拍動能が確認されたのは初めてのことであり、iPS細胞を用いた再生治療における大きなマイルストーンとなりました。本受賞を励みに、今後心臓血管外科領域において、臨床・研究のそれぞれにおいて精進し、心臓血管外科学の発展に貢献したいと考えています。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

刀林賞を受賞して



慶應義塾大学医学部
外科(一般・消化器)
加藤 悠人 (94回)

刀林奨励賞を受賞して



慶應義塾大学医学部
外科(心臓血管)
川合 雄二郎 (90回相当)

刀林奨励賞を受賞して



上尾中央総合病院 若林 大雅 (91回相)

この度は、伝統ある刀林奨励賞にご選出いただき、誠に光栄に存じます。ご支援賜りました先生方、査読を担当された選考委員の先生方、本研究をご推薦いただきました北川雄光先生ならびに上尾中央総合病院の若林剛先生をはじめ、日頃よりご指導いただいております刀林会会員の皆様に深く御礼申し上げます。

受賞論文は「Laparoscopically Limited Anatomic Liver Resections: A Single-Center Analysis for Oncologic Outcomes of the Conceptual Procedure」(Annals of Surgical Oncology, 2023年)であり、上尾中央総合病院における腹腔鏡下解剖学的肝切除を対象に、術後長期成績を後方視的に解析したものです。腹腔鏡下肝切除を代表とする低侵襲肝切除は、1990年初頭の初報以来、国際コンセンサス会議を経て発展し、安全に施行されるようになりまし。しかし、その腫瘍学的成績に関するエビデンスは限られており、特に長期的な成績について

は、治療様式や手術のクオリティに差があるため、一貫した評価が難しい状況です。近年、3Dシミュレーション技術やICG蛍光法の進化により、より精緻で正確な解剖学的肝切除が可能となり、特に肝細胞癌の多いアジア太平洋地域において、亜区域切除を代表とする実質温存解剖学的肝切除 (limited anatomic resection: LAR) の有効性が注目されています。LARは、従来大肝切除が必要とされていた肝腫瘍に対し、3Dシミュレーションを用いた精緻な術前計画に基づき、担癌門脈域を正確に同定し、過不足のない切除を行うことで、将来の再発に対する治療に備える治療戦略です。

今回の論文では、2016年から2021年にかけて当院で施行された腹腔鏡下実質温存解剖学的肝切除(Lap-LAR)の術後長期成績を後方視的に解析し、総計112例(年齢中央値74歳)の患者において、比較的良好な成績を示しました。肝細胞癌47例における3年お

病院紹介

国際親善総合病院



国際親善総合病院 副院長 佐藤 道夫 (66回)

国際親善総合病院の歴史は古く、そのルーツを辿ると幕末1863年(文久3年)に外国人居留民によって外国人居留地(横浜市中区山下町88番地)に設立されたTHE YOKOHAMA PUBLIC HOSPITALにさかのぼります。その後、病院名と場所の変遷を経て、1946(昭和21)年に院内で『国際親善病院』として

スタートしました。当時の設立趣意書には「国籍を問わず在留外国人に医療を提供し、国際親善に貢献する」と謳われています。1990(平成2)年に現在の横浜市泉区に新築移転し現在に至っています。慶應義塾との関連は、1997年の掛川暉夫先生(外科・33回生)の病院長就任に始まり、以後病院長は村井勝先生

(泌尿器科・46回生)、安藤暢敏先生(外科・50回生)に引き継がれています。当院は、病床数287床の急性期地域中核病院で、泉区(人口15万人)の急性期医療をささえる総合病院です。25診療科、常勤医70名、非常勤医86名で構成され、主な医療圏は横浜市西部(泉区、旭区、瀬谷区、戸塚区)となり、救急車受け

入れ台数は年間約5000件を超え、1日外来患者数は600人超です。病院機能評価は1998年に神奈川県下で第1号の認定病院となり、本年11月に5回目の更新審査を受審しました。外国人患者受け入れ医療機関認証制度(JMIP)は県で4番目に取得し、AI問診の導入など院内の充実したシステムづくりや患者への安心安全な医療・サービスの提供という点で進取の気性で臨んできました。慶應義塾大学医学部からは、外科、呼吸器外科、整形外科、画像診断・IVR科の4科に医師が派遣され、他の診療科は主に他大学出身者で構成されています。

現在の外科のメンバーは、安藤暢敏(50回、病院長、上部消化管)、佐藤道夫(66回、副院長兼外科部長、上部消化管)、富田真人(74回相当、化学療法室担当部長、上部消化管)、徳田敏樹(90回、医長、腸)、小泉亘(90回相当、医長、肝胆膵)、鶴嶋史哉(100回、D4)の6名で構成され、呼吸器外科は成毛聖夫(70回相当)の1名です。外科・呼吸器外科の病床数は37床です。



2023年の手術件数は、外科524件、呼吸器外科44件でした。主な悪性腫瘍に対する手術は食道癌3件、胃癌16件、結腸直腸癌73件、肝悪性15件、膵胆道悪性10件、甲状腺悪性9件、肺悪性25件で、外科手術の約半数を内視鏡下手術で行っています。2023年にda Vinciを導入して、泌尿器科領域で開始し、外科では2024年より結腸直腸癌の領域で導入し、現在ほぼ全例にロボット支援手術

を行っています。また甲状腺領域では、2019年から内視鏡下甲状腺切除を開始し積極的に内視鏡下手術に取り組んでいます。内視鏡センターでは、外科と消化器内科が年間600件を超える上部・下部・胆道内視鏡を行い、うち約1/3を外科が担当しています。さらに2016年には25床の緩和ケア病棟が新設され、診断から治療、緩和ケアに至るまでチームレスな癌診療を提供しています。教室からは例年1名のレジデントを預かっておりますが、それぞれの専門医が領域ごとに指導し学術的には積極的な学会発表と最低1編の論文執筆(できれば英文)を指導しています。現在日本は急速な高齢化社会に突入し、この傾向はますます顕著になっていきます。当院でも外科入院患者の約半数は80歳を超えている現状があり、これからの外科はcureのみならずCareも求められる時代です。われわれは、チーム医療を大切にしながら地域の先生方と密に連携をとって地域に密着した外科を目指しています。

公立福生病院



当院は、昭和20年に昭和飛行機により福生病院として開設され、23年には東京都国民健康保険組合団体連合会福生病院に継承されました。その後、平成13年4月に福生市、羽村市、瑞穂町に移管され、「公立福生病院」と名称変更して生まれ変わり、現在に至っています。平成22年に新病院建設ののち、一般病床316床(二般急性期病床271床、地域包括ケア病床45床)で

運営、西多摩医療圏における地域医療の中核病院として、現在17の診療科及び健診センターで診療を行っています。研修医を含め常勤医師は50余名と決して多くはありませんが、大規模病院と違い看護師、コメディカルとも顔の見える人間関係を築ける病院となっています。

コロナ禍においては2病棟をコロナ病床とし、西多摩地域のみならず都区内からも感染者の受け入れを行いました。西多摩地域における3公立病院と同じく東京都2次救急医療機関としての救急医療、一般急性期医療の継続的運営を行っています。

また災害拠点病院に指定されており、近い将来に予想されている首都直下型地震

においても地域住民の安全と健康を守るよう、地元行政、医師会等とともに、トリアージ訓練、救護所開設訓練も進めています。当院の理念は「信頼される病棟」であり、患者中心の医療を基本に患者さんと職員との信頼関係に基づく医療を提供できるように職員は努力を重ねています。

外科診療科では、外科(一般消化器外科と乳腺外科)と脳神経外科に加え、非常勤外来で小児外科、呼吸器外科の診療を行っています。2024年10月現在の外科常勤医は仲丸誠(副院長、73回)、木全大(部長、73回相当)、瀬沼幸司(部長、乳腺、73回相)、星川竜彦(部長、76回相)、杉田篤紀(79回相)、植松亜樹(101回)および脳神経外科、福永篤志(部長、71回)、原口安佐美、佐々木正史です。

一般外科の年間手術症例数は約500件前後で、腹腔鏡手術を中心に開腹手術も多く、チーフ出張、D3出張にとっては執刀の機会が多い外科修練として恵ま



副院長 仲丸 誠 (73回)



Dan教授グループの食事会

私は2023年4月より、米国のボストンにある Massachusetts General Hospital の Radiation Oncology 部門に所属する Edwin L. Steele Laboratories 中の Dan Duda 教授の研究室に留学する機会を頂きました。Duda 教授の研究室では、消化器癌、特に肝

細胞癌や胆管癌に対する薬物療法、放射線治療を組み合わせた最適な治療法を探る作用メカニズムを明らかにすることをテーマとしています。Duda 教授は臨床に直結できるような研究をすることにフォーカス

では必ず付随するであろう肝障害をあらかじめマウスに引き起こしてから癌移植をしたり、肝細胞癌の微小環境を観察するために、肝臓にマウス肝細胞癌の細胞株を移植する同所移植モデルを採用しています。その中で私は、肝細胞癌に対して PDI-1 阻害薬と分子標的治療薬を組み合わせて相乗的に引き起こる腫瘍微小環境の変化について研究しています。研究を通じて、消化器癌治療、特に腫瘍免疫に対する知識が深まったのはもちろんのこと、研究室内や共同で実験を行っている研究者との意見交換、オミクス解析、最先端の研究機器の使用など、様々な経験を積むことができています。また、Duda 教授が主催する Boston Angiogenesis Meeting (BAM) 2024 で口演発表をする機会をいただきました。世界の研究者たちのプレゼンテーションは魅力的で学ぶことも非常に多いです。オフには、昨季全米で優勝した Boston Celtics のプレーオフを観戦したり、週末には、マサ

チューセッツ州の周りを車を車で訪れました。北はメイン州やニューハンプシャー州でキャンプをすることや、美しい紅葉を見ることができ、森の中で開催される John Williams が指揮する屋外コンサートを見に行ったこともありました。南はケープコッド、ロードアイランド、ニューヨークも車で行くことができます。日本からは絶対に訪れないような、しかし全米から毎年好んで訪れるような場所がボストンの周辺にはたくさんあり、飽きることはありません。このように新しい環境で新しいメンバーと新しいことを探求するという貴重な経験ができ、充実した日々を過ごしています。このような素晴らしい機会をくださった北川教授、尾原先生、岡林先生ならびに外科学教室の皆様はこの場を借りまして心より感謝申し上げます。

今後とも刀林会の皆様方のますますのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

留学報告



安藤 知史 (90回)



サンタモニカピアのレストランにて

私は2024年4月より米国カリフォルニア州サンタモニカにある Providence Saint John's Cancer Institute (旧 John Wayne Cancer Institute) というがん研究施設に留学しております。本研究室は、隣接する Saint John's Health Center から多くの臨床検体と豊富な細胞株、さらに最新鋭の研究機器を駆使し多種多様な Translational Research を



阿部 紘大 (93回)

行ってきました。私は、現在悪性黒色腫と肝内胆管癌における薬剤耐性に関するバイオマーカー研究を担当し、肝内胆管癌に関しては慶應との国際共同研究として本年より発足・開始いたしました。本研究室のグループリーダーである Dave S.B. Hoon 先生は2000年初頭から日本の留学生を多数受け入れております。慶應の外科学教室からは竹内

裕也先生をはじめ、過去20年間多くの先輩方がご留学され実績を残されており私もその一員になるべく精進しています。現在は、慶應義塾大学以外にも東京大学(外科)、大阪大学(外科)、九州大学(泌尿器科)、そして中国からの優秀な留学生とともに切磋琢磨しています。 Dave S.B. Hoon 先生から常日頃よりご指導いただいている新規性と創造性を意識しながら研究を形にして参りたいと存じます。研究以外ではコロナの影響は全く無く、隣接する Saint John's Health Center 主催のパーティーやイベントも定期的に行われ、アメリカならではの文化を感じることが出来ます。また、サンタモニカは一年を通してほとんど雨が降らないため、非常に良い気候のもと、日本の留学生や UCLA の先生たちと BBQ やゴルフなど、家族交流も充実しています。私の家族は渡米後現地の小学校とデイケアに入りました。当初、慣れない環境に苦しんだ場面も多々ありましたが、現在は現地の友達もでき楽しく生活できています。カリフォルニア州にはデイズニールンドやユニバーサルスタジオなどのテーマパークだけでなく国立公園やスポーツ観戦も盛んですので、家族にとっても素晴らしい経験と思っております。末筆になりますが、このような留学という素晴らしい機会を与えてくださった北川雄光教授、尾原秀明先生、北郷実先生、そして外科学教室の先生方に心より御礼申し上げます。

留学を終えて



欧州内視鏡外科学会にて

私は2022年9月から2024年8月までの2年間、フランス・ストラスブールの Research Institute against Digestive Cancer (IRCAD) に留学する機会をいただきました。IRCAD は低侵襲手術の教育・研究施設であり、世界中から学びに来る外科医に向けたロボットおよび腹腔鏡手術の教育の提供さらには AI やイメージガイド手術を中心とした次世代治療の開発に向けた研究が行われています。私は Jacques Marescaux 教授のもとで IRCAD の主催する外科教育コース内で手術指導のトレーナーとして働く傍ら、AI を活用した急性胆嚢炎手術の安全性



川崎市立川崎病院 三島 江平 (89回)

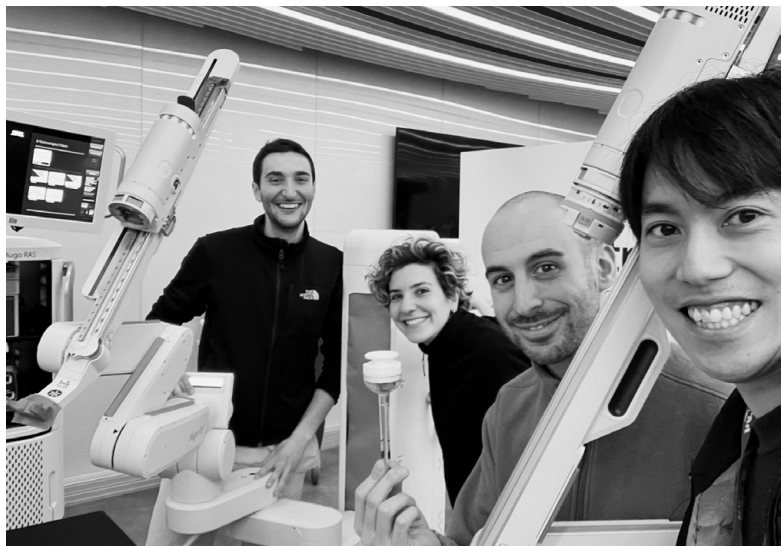
向上に関する研究、さらには Strasbourg 大学の研究室と共同で、新しい腹腔鏡を肝臓外科手術に応用する研究を担当しました。留学中は外科教育に関する知見が得られただけでなく、世界で活躍する外科医との交流など、日本国内だけでは得られない経験をすることができ、外科医としての視野が広がったことを実感致しました。

さて、留学を終えて2024年9月より私は川崎市立川崎病院で肝胆膵外科の実務責任者として臨床業務を再開しております。2年間のブランクが自分の手術技術、臨床感覚にどのような影響を与えるか少し不安もございましたが、市東部長、前任の三原先生をはじめ外科スタッフの方々から多大なサポート、さらには信頼をよせていただき、スムーズなスタートを切る事ができました。本施設での私にとっての至大命題は、これまで経験してきた肝胆膵高難度手術、腹腔鏡・ロボット手術を安全に導入し、ポストチーフの先生やレジデントの先生方にとって、より良い学びの場を提供することであると認識しております。川崎病院も新規医療技術の導入について好意的で、既に開始されている高難度腹腔鏡下肝切除術、ロボット支援下膵体尾部切除に加えて、この度ロボット支援下肝切除術の開始も承認頂きました。慶應外科の名門である川崎病院外科の名に恥じぬよう、これまで以上に精進して参りますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

末筆になりますが、改めて留学という素晴らしい機会を与えてくださった北川雄光教授ならびに外科学教室の諸先輩方に心より感謝申し上げます。



リオンでの家族写真



IRCAD の同僚と

地域便り

大分県別府市 宮崎クリニックス



宮崎 泰弘 (49回)

故郷大分県別府市亀川で有床診療所を開業して34年が過ぎました。気が付けば傘寿が目の前です。勤務医時代は呼吸器外科医として主に肺がん治療に取り組んでいました。今は遠い昔の事ですが。

別府市は九州の東北部瀬戸内海に面した大分県の東海岸の中央に位置し、阿蘇くじゅう国立公園に属する由布岳、鶴見岳の麓で裾野をなだらかに別府湾へと広がる扇状地特有の地形により緑豊かな山々や高原と波静かな別府湾に囲まれた人口13万の美しい景観の町です。多くの先生方は当別府を訪れたことがあると思います。別府といえれば温泉です。毎分10万2千リットルの湧出量は日本一です。私と妻は診療所の三階に住居しているのですが、敷地に昔から温泉源があり、風呂は温泉です。このような家は別府ではめずらしいことではなく、一つの温泉源を数軒で使うことで内湯(温泉)がある家も少なくありません。ただ、随分前

から新たな掘削は禁止されています。毎日温泉を享受でき、美しい景観のなかでのこの故郷の生活は年齢を重ねるごとに有難く思えてきます。

現在診療所は無床の外來診療のみとしています。長女(高速道路を1時間かけて勤務)と二人で診療をしています。当分(元気な間)はスタッフの協力を得ながら出来る範囲で診療は続けようと思っています。仕事以外では、妻と歩きを兼ねた近場のドライブ(たまにですが)、週2回程度のゴルフ練習、週1回程度のゴルフラウンドなどで運動を兼ねて楽しんでいきます。

この34年間を振り返ってみると私の住んでいる亀川地区は別府市の端に位置し、元々漁業、農業の町で商店をはじめ種々の零細業者によつてほぼ自己完結できるコミュニティでした。20数年ほど前から「規制緩和」の名のもと徐々にこのコミュニティも大部分が消失し、直接打撃を受けた患者さんや家族を通して時代の変化

を実感して来ました。医療行政、介護行政もこの20数年で何回も改正されてきました。この「何のために」「誰のために」がいつも疑問符のつくことばかりでした。「失われた30年」と言いますが、政治が逆回転し何とか国民にとって優しい世の中が来ないものかと思っています。

紙面をお借りしまして、私共49回生は毎年クラス会を行っていたのですが、コロナ禍で途絶えてしまいました。刀林会員の49回生の皆様、全ての49回生の皆様をお変わりありませんか。別府を訪れることがあればどうぞお声かけ下さい。

受賞報告

令和5年度日本消化器癌発生学会 大原毅賞 受賞



慶應義塾大学医学部 外科(一般・消化器) 岡林 剛史 (78回)

この度、日本消化器癌発生学会・大原毅賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。大原毅賞は、日本消化器癌発生学会の設立に尽力された東京大学第三外科・大原毅先生を記念して制定され、臨床医学の施設に所属する医師を対象にした賞になります。今回の受賞は、私の努力というよりは腸班の先生たちの研究成果が評価された結果です。

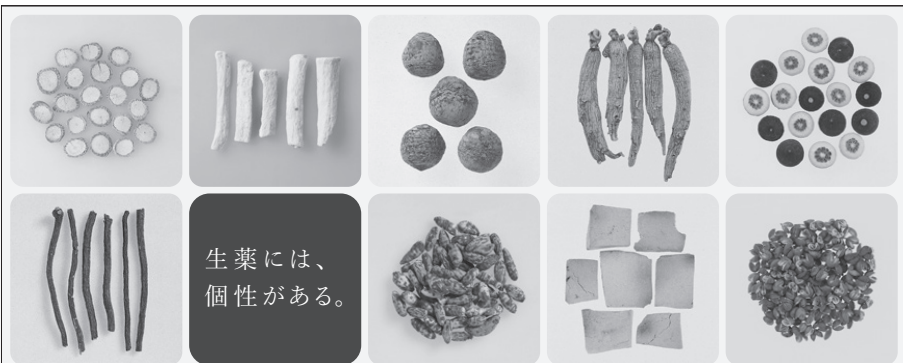
日頃からの努力が評価されたことを大変うれしく思います。また、北川雄光教授、長谷川博俊先生には、日頃からの多大なるご指導に加え、研究のきっかけとなる留学もさせていただき、心より感謝申し上げます。受賞の対象となった研究「炎症が大腸癌に与える影響について」を、簡単にご紹介させていただきます。炎症は、感染、内因性疾患、外傷などの内的もしくは外的な要因を契機とする侵襲に対する免疫反応です。炎症の本来の役割は侵襲に対する防御反応ですが、炎症は様々な疾患の発症や進展に

強く関与することが報告されています。私は、全身の炎症と局所の炎症ががんに対してどのような影響を与えるのかについて基礎的・臨床的な観点から研究を行ってきました。

1. 肥満がもたらす全身性炎症と発がんの関係について(松井信平君・鈴木佳透君) マウスモデルを用い、肥満マウスでは大腸腫瘍の形成が多く、E13の発現増加が、肥満関連の大腸がんの発がん重要な役割を果たすことを明らかにしました。また、肥満マウスでは細胞極性の制御に関わるEphB2/ephrin-B1シグナルの乱れが生じ、大腸粘膜のアポトーシスが低下し、大腸腫瘍形成が促進することを見出しました。

2. 局所の炎症が大腸がんに与える影響について(鶴田雅士君・清島亮君・矢作雅史君・近藤崇之君・杉浦清昭君・池端昭慶君・牧野暁嗣君) 大規模データベースを用い、潰瘍性大腸炎と大腸がんの悪性度について検討しました。潰瘍性大腸炎関連腫瘍では、背景の大腸粘膜の炎症の程度が予後と相関し、分子標的薬による炎症の制御が大腸癌進展抑制に効果的であることを明らかにしました。マウスに高脂肪食を与え、食餌性に非アルコール性脂肪肝疾患を誘導すると、肝転移を多く認め、E13にて活性化した星細胞が増殖能や浸潤能獲得に影響を及ぼすことを示しました。また、喫煙マウスを用い、喫煙が肺転移形成に及ぼす影響を検討したところ、喫煙マウスで肺転移形成が有意に多く、接着因子であるICAM-1が関与していることを見出しました。

最後にこの研究を進める上でご支援いただいた方々に、心から感謝の意を表します。この大原毅賞の名に恥じぬよう、今後もこの成果を発展させ、社会に貢献できるよう努力してまいります。



生薬には、個性がある。

漢方製剤にとって「良質」とは何か。その答えのひとつが「均質」である、とツムラは考えます。自然由来がゆえに、ひとつひとつに個性がある生薬。漢方製剤にとって、その成分のばらつきを抑え、一定に保つことが「良質」である。そう考える私たちは、栽培から製造にいたるすべてのプロセスで、自然由来の成分のばらつきを抑える技術を追求。これからはあるべき「ツムラ品質」を進化させ続けます。現代を生きる人々の健やかな毎日のために。自然と健康を科学する、漢方のツムラです。

良質。均質。ツムラ品質。



第13回日韓血管外科学会 Presentation Award 受賞

慶應義塾大学医学部
外科(一般・消化器)

海ヶ倉 紀文(98回相)

この度2024年6月29日から30日にかけて神奈川県川崎市で開催された、第13回日韓血管外科学会(The 13th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery)において、Presentation Awardを受賞いたしました。本会は両国の血管外科学会が、相互の交流を目的に2年に1回開催しており、今年度は日本での開催となりました。本会の参加者は韓国から51名、日本から79名と計130名に及び、盛会となりました。今回私は、当院大血管浸潤腫瘍治療センターで施行した巨大腹腔内腫瘍切除において、「A Case of Surgical Resection Requiring Double Extracranial Bypass for a Giant Neurofibroma Involving the Superior Mesenteric Artery」という演題で発表いたしました。

大血管浸潤腫瘍治療センターは2023年9月に発足し、大動脈や下大静脈といった大血管に浸潤した腫瘍に対し、一般・消化器外科だけでなく、心臓血管外科、整形外科、泌尿器科、腫瘍センター、放射線科など多診療科で診療にあたり、複数臓器におよぶ超高難度手術や集学的治療を行うことを目的としております。本症例は大血管浸潤腫瘍治療センター初例であり、病変は上腸間膜動脈を芯棒にして、上腸間膜静脈にも広く接した長径15cmにもおよぶ上腸間膜動脈周囲巨大神経鞘腫でした。腫瘍切除の上で上腸間膜動脈を切断することは不可欠でしたが、若年であり腸管を極力温存したいことより、同時に血行再建も行う方針としました。血行再建では、右総腸骨動脈より大伏在静脈グラフトを用いて第二空腸動脈、回腸動脈にdouble bypassを置くことで良好な腸管血流を維持することができました。本症例は現在も腸管機能に問題はなく、また腫瘍の再発なく経過しております。



左より 尾原秀明准教授(72回)、筆者、鳥崎友紀子(94回)、藤村直樹助教(82回)

第20回日本血管腫血管奇形学会 優秀演題賞

受賞報告 国立成育医療研究センター

小児外科系専門診療部外科フェロー

山岸 徳子(96回相)



左から、下島直樹君(76回)、山岸徳子君(96回相)、藤野明浩教授(75回)

令和6年7月26・27日に新潟市で行われた第20回日本血管腫血管奇形学会学術集会(JSSVA)において、山岸徳子君(96回相)が「リンパ管腫(嚢胞状リンパ管奇形)とKlippel-Trénaunay症候群の蜂窩織炎治療の後方視的検討」を発表し、優秀演題賞(ポスター部門)を受賞した。同君は、出向先の国立成育医療研究センターで外科及び脈管疾患センターの一員として、下島直樹君(76回、外科診療部長・脈管疾患センター長)とともに小児の脈管疾患患者の治療・研究に携わっている。

JSSVAは、小児の脈管的な多くの患者の後方視的検討は、本疾患の感染に対する診療指針へ導く意義の大きな研究であったことが評価され、栄誉ある受賞につながった。

同君は現在「Podoplaninを標的としたヒトリンパ管腫(リンパ管奇形)に対する光免疫療法法の開発」に取り組んでおり、1日でも早く本疾患で困っている患者さんに画期的な治療法を提示できるべく努力している。同君の今後の活躍に期待している。

外科学(小児)
藤野明浩(75回)

第53回恙無会 (つつがないかい、旧食研外科研究室同窓会) 報告

幹事 丸山 圭一 (41回)
 担当 吉野 肇一 (44回)

はじめに

若い刀林会会員のたために、かつて存在した「食研外科研究室」を短く紹介します。

外苑東通りに面した現在の信濃町煉瓦館の場所に食養研究所が1995年(平成7年)まであり、その1階(半地下とも言える)に食研外科研究室がありました。

戦後間もない1956年(昭和31年)に外科学教室で最初の研究室として創設され、研究対象は胃、肝胆膵、乳腺、感染症、化学療法、消化管内視鏡などでした。1973年(昭和48年)に研究グループは臓器別と機能別に改変され、「食研外科研究室」は解散しました。

ですから同窓会メンバーで最も若いのが45回生です。全員、後期高齢者で、今回出席者も皆、持病持ちです。が、元気にしています。

今回の報告

2024年5月23日(金) 正午より約3時間、恒例となった新宿駅西口・京王プラザホテル内中華(広東)料理店 南園で、昨年と同数の15名(会員7名、夫人

6名、研究室助手など2名)参加のもと、これも恒例となった丸山幹事の司会で開催された。

いつものようにこの1年間に逝去された武石展代君(30回)、佐藤 清君(43回)と鈴木卓二君(44回)へ黙祷が捧げられた。

参加者中、最長老の大槻道夫君(32回)の開会の乾杯に続き、庶務報告・会計報告と欠席者のスライドなどによる近況報告が幹事より行われたあと、出席者から以下のような近況報告があった。

武石澄夫(故武石輝夫、31回)・展代君、30回、夫妻の長男)・母の経過報告と生前の厚誼へのお礼

大槻(32回)・夫妻で出席、長野県諏訪のクリニックで多くのコロナ患者に対応中。今春、夫人のピアノ伴奏でチェロコンサートを自宅で開催

船曳(40回)・夫妻で出席、間質性肺炎と2回目の人工弁置換手術を克服し、

今冬には旭川で20人のスキー合宿を主催

丸山(41回)・夫妻で出席、未だにスキーの上達を目指し精進。昨年5月に慶大外科・北川雄光教授が主催した国際胃癌学会で、多くの海外の友人に会うことができた。

秋里(44回)・多忙なクリニックのなか、ドライブ旅行をエンジョイ中

鈴木保江(故鈴木卓二君、44回、夫人)・夫君の経過報告と生前の厚誼へのお礼

松岡(44回)・滋美夫人(45回、皮膚科)と出席。つくば市に転居後は庭作りとピアノ練習の日々

吉野(44回)・相変わらず非常勤顧問医師・講師として近所の上板橋病院・看護専門学校勤務。医学・医療の進歩に遅れないよう、また看護師国家試験合格率向

上に鋭意努力中

本橋五十路(旧姓田村、胃鏡室検査技師)・家業と大家族の世話で奮闘

柴崎智津子(旧姓柴崎、研究室秘書)・愛犬がコンテストで受賞

その後、歓談が和やかに行われた。武石さんからは、持参のリモートコントローラによる会場自動撮影装置(亡くなったご両親への報告用)の解説等ITの説明をしていただき、一同、新技術に触れることが出来た。

来年2025年5月23日(金)、今回同様、正午から南園での再会を約して散会した。

(丸山・吉野)



前列左より松岡滋美(松岡夫人)、柴崎智津子、大槻道夫(32回)、丸山和紀子(丸山夫人)、鈴木保江(故鈴木卓二君夫人)、船曳愛子(船曳夫人)、大槻由美子(大槻夫人)、本橋五十路
 後列、同様に丸山圭一(41回)、横山拓也(40回)、秋里和夫(44回)、船曳孝彦(40回)、松岡宏章(44回)、吉野肇一(44回)、武石澄夫(故武石夫妻長男)

開業

緑の杜クリニック

令和6年4月1日より栃木県那須塩原市の那須塩原駅前

私は、平成10年に山形大学医学部を卒業後、慶應義塾大学一般・消化器外科に入局

従事することができました。内視鏡治療や内視鏡診断は、手術を主体とした治療方針

令和4年秋にクリニックでの勤務を具体的に考え、那須赤十字の上司でありま



青木 真彦 (77回)

れないこともありましたが、4月になり新しい生活が動き出してからは、ただただ置かれた境遇で最善をつくそうという強い気持ちで邁進しております。

今後は、消化器疾患、生活習慣病を中心にそれ以外のさまざまな領域の疾患に対しても、近隣の医療機関とも連携、協力し、できるだけ多くの地域のニーズに答えられるような医療を展開できれどと考えております。



川崎駅前大腸と胃の消化器内視鏡・肛門外科クリニック



近藤 崇之 (88回)

令和6年4月、神奈川県川崎市の川崎駅前に「川崎駅前大腸と胃の消化器内視鏡・肛門外科クリニック」を開業いたしました。

立川崎病院、日本鋼管病院、済生会横浜市東部病院があり、刀林会をはじめとして三四会の多くの諸先生がおられ、非常に心強く感じて日々の診療をしております。

にはぜひお声がけいただければと存じます。これから引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

義塾大学を卒業後、一般・消化器外科教室に入室し、腸班に所属しました。北川雄光教授、長谷川博俊先生、岡林剛史先生のご指導の下で臨床、研究の研鑽を積ませて頂きました。その後は東京医療センター、川崎市立川崎病院で非常に多くの症例の経験を重ねることが出来ました。特に川崎市立川崎病院では同世代の仲間

診療は内視鏡検査を中心とした消化器内科診療と肛門診療を行っております。検査機器は、上部及び下部消化管内視鏡、超音波、単純X線、心電図、肛門内圧検査、肛門エコーなどを置いております。肛門診療には特に力を入れており、神奈川県でも数施設にしかない肛門内圧検査機器や肛門エコー機器を備え、専門的な肛門診療を行える体制を整えています。



クリニックHP

なでしこ外科医



慶應義塾大学医学部
外科 (小児)
工藤 裕実 (94回)

この度は伝統ある会誌にご寄稿の機会をいただき誠にありがとうございます。未熟者ではございますが筆を執らせていただきました。私は学生時の実習を通して、こどもが健康に出生し心身ともに健康に発育していく

ことは決して当たり前のこととはではなく様々な要因が組み合わさって成されることであると痛感し、こどもたちが幸せに成長していく一助になれたらという思いを抱いていました。小児外科は乳幼児期に手術をした後

も、その子供が結婚・出産を迎えるまで見守っていくことが任務であるとされています。その過程のなかで、身体に関わる診療だけでなく就学・就労時のサポートや、ひいては家庭環境の調整といった患者さんやその

ご家族の生活に深く関わっていく場面も多く、その際に患者さんと医師の信頼関係の構築が非常に重要になってきます。初期臨床研修先だったさいたま市立病院において、小児外科の先生方はこどもたちから全幅の信頼を置かれ単なる医師・患者の関わりを超えた関係性を築かれており、その姿勢に非常に感銘を受け

たことから、当時は慶應小児外科に在籍する女性外科医は2名しかおらず自分が入局すれば何十年ぶりかという状況ではございましたが、小児外科の道に進む決意をいたしました。その後さいたま市立病院 外科、成育医療研究センター、大学と外科および小児外科修練を続けておりますが、毎日学ぶことばかり

の刺激的でかつ楽しく、非常に充実した研修を行うことができており、この道を進んだことに一瞬たりとも後悔を感じたことはありません。自分が思い描いていた小児外科医とはまだまだかけ離れた状態ではございますが、今後も日々成長していくことができよう精進してまいります。現在2人目を妊娠しておりますが、これまでの妊娠・出産・育児におきましては皆様の温かさに支えていただいております、この場をお借りして感謝申し上げます。今後も引き続きご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



浅沼 史樹 (56回)

ター研究所内内分泌部研究員として2年、北里大学北里研究所病院に30年勤務した後、四津良平先生(52回)に誘って頂き、2017年4月から原宿リハビリテーション病院に勤務していただきます。救急医療に関わりたくて、外科に入局しましたが、その後、消化器(胃班)、乳腺(乳腺専門医)を経て、回復期リハビリテーションと、その時その時の自分と同年代の患者さんと向き

合ってきたように思います。今は、自宅での生活や、施設での安心した毎日をめざす、元気な高齢者を支援し、大勢の若い理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師のスタッフに囲まれて、毎日の通勤に励んでいます。



日野市立病院
大杉 頌子 (95回相)

この度は「なでしこ外科医」への寄稿という貴重な機会をいただき、ありがとうございます。95回生相当の大杉頌子と申します。

私は初期臨床研修を国立病院機構埼玉病院で行いました。消化器外科という進路は全く考えていなかったのですが、当時の院長である原彰男先生、外科部長の早津成夫先生率いる先生方の

手術や診療が研修医の私にとって、非常に魅力的にうつりました。ぼんやりと考えていたライフプランニングとはかけ離れた進路になることは非常に不安でしたが、挑戦したい気持ちを抑えられず、慶應義塾大学一般・消化器外科への入局を決めました。研修を終え、埼玉病院を去る前に原先生から「いつか大杉先生の活躍を、なでしこ外科医で読

むのを楽しみにしています」と励ましていただいたのを思い出し、非常に感慨深く執筆しています。入局後の2年間は公立福生病院、国立病院機構栃木医療センターにて非常に多くの手術を経験いたしました。

2020年4月、未曾有であったCOVID-19の流行と共に大学に帰室し、入局を決めた時と同様に挑戦したい気持ちを抑えられず、肝臓・移植に所属いたしました。様々な制限があった中、班長の北郷実先生、スタッフの阿部雄太先生をはじめ多くの先生方に非常に熱いご指導を賜りました。

2023年4月よりポストチーフとして日野市立病院に就任し、現在に至ります。部長である藤田晃司先生率いる外科チームとして幅広い経験を積む一方で、肝胆膵領域についてはERCPから手術に至るまで大先輩の先生たちに魅力的な女医さん、というよりも魅力的な外科医だと思っております。また、新たな挑戦として2024年4月より褥瘡委員会の一員となり、褥瘡の診療にあたっております。消化器外科と違う分野の診療は非常に新鮮で勉強の

日々です。さて、女性外科医としての自分を一番意識したのはポストチーフ1年目でした。共に過ごしたレジデントが入局1年目の石川亜美先生だったからです。外科医になりたての彼女が日々私を見てどう思うか、というのは元来周りからの評価をそれほど気にしない私にしては珍しく、気になるところでした。最後までその答えを聞くことはありませんでしたが、今後も男女関係なく後輩の先生たちに魅力的な女医さん、というよりも魅力的な外科医だと思っております。また、新たな挑戦として2024年4月より褥瘡委員会の一員となり、褥瘡の診療にあたっております。消化器外科と違う分野の診療は非常に新鮮で勉強の

おりでしたが、さらに8月末と10月中旬には続けて女子の孫の誕生があり喜びの多い日々となっております。長男は川崎市立川崎病院、次男は東京医大八王子医療センター、三男は静岡赤十字病院に勤務しており、それぞれ孫に会うのを楽しみに日々仕事をもう少し頑張ってみようと思っております。



荻原 裕之 (56回)

のごとりの12年間でした。現在は千葉の病院に週2日間お世話になっております。勤務内容が幅広いので、医療の進歩についていくのが一杯です。最近、早寝早起きの癖が付いてしまっています。朝4時に目が覚めてしまいます。当然夜寝るのは8時頃なんです。朝起きて午前中は、読書を楽しんでいます。読書といっても主に研修医レベルの医学書を読んでいることが多いです。まあ午後はほとんどフリーの時間で、散歩など、ストレスない、生産性の高い生活をしております。皆さん。私が住んでる所は杉並区ですが、近くに来たら是非寄っていただければ、嬉しく思います。

までで最長となりました。現在も火曜日の手術日を除いてほぼ毎日外来、そして手術も毎週入っております。幸いにも視力も保っております。調子にも変わったことがないの無事務めております。天気のいい休日には夫婦で早朝のツースサムゴルフに出かけ、夏場は5時頃からラウンドしてあります。今までの5人の男子の孫にめぐまれて



菊池 潔 (56回)

本年9月で山王病院での在職期間が18年となり、今

合ってきたように思います。今は、自宅での生活や、施設での安心した毎日をめざす、元気な高齢者を支援し、大勢の若い理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師のスタッフに囲まれて、毎日の通勤に励んでいます。

近況報告 56回生



黒水 丈次 (56回)

2015年4月から横浜にある大腸肛門病専門病院

の松島病院に勤務し、2021年からは名誉院長・排便機能科長として週4日外来を中心と働いています。卒業後、消化器外科、特に大腸肛門外科を専門とし、術前術後の大腸肛門機能をライフワークとしてきたことが現在に繋がっています。便秘失禁や便漏れなどの大腸肛門機能障害患者は、器質的にも機能的にも増加しており、3ヶ月先までの予約も殆ど埋まっています。また、障害も治療する施設が少なく、括約筋形成術で治療し喜ばれています。この分野の専門医は非常に少ないため、後任を見つけないのに難渋しており、私自身何時まで続けられるかもわからず、落ち着けない日々を過ごしています。



佐藤 周三 (56回)

50を過ぎて開業した。開業を期に脳卒中の原因であ

る生活習慣病の治療、特に肥満の治療を開始した。耳鳴りの治療に認知行動療法を行っていたのを知っていたので、これを用いて臨床心理士とともに肥満治療を行った。心理学的な検査の結果と治療成績は「肥満の心理療法」(慶應医学84巻第4号227-235)として発表された。肥満治療に認知行動学的手法を導入した世界初の論文であったと自負している。患者に勧められてバレエを始め、上達する



堂本 洋一 (56回)

伊勢への出向当初、1年間の予定でしたが、42年となりました。伊勢慶應病院

の20年間に、1100例程の脳外科の手術を行いました。その間伊勢に赴任された外科の先生方に多大なる援助と、お力添えいただき、誠にありがとうございました。昭和58年10月に脳動脈瘤の手術を施行した患者さんは、現在も通院されています。平成15年10月伊勢慶應病院から伊勢慶友病院に移管され、私独り残留し院長となりました。十数名の職員で82名の患者という、マイナスからのスタートでした。あれから22年、旧



藤崎 真人 (56回)

研修終了後の昭和58年(1983年)6月より足利赤十字病院外科にチーフ出張し、平成29年(2017年)3月の定年退職までの34年間、最後の3年は副院

長として勤務しました。31年間の食道癌切除再建術は200例弱、手術死亡は3例、在院死亡は11例でした。現在は近隣の複数の医療機関で上部消化管内視鏡検査に従事しており、年間に1000〜1300件の検査を行っております。医師数が少ないために73歳になった今でも老骨にむち打って勤務しております。刀林会にはなかなか出席できず心苦しいばかりですが、機会がありましたらまたお目にかかりたく存じます。



松本 賢治 (56回)

長らく勤務した慶應義塾大学病院や河北総合病院を退職後、かねてから念願の悠々自適な執筆生活を送るかかと密かに企図していましたが、世の中そう甘くはありませんでした。

さて結局、退職後は強制的に平塚市で家内のクリ



宮原 保之 (56回)

1983年栃木県の大田原赤十字病院(現 那須赤十字病院)の脳神経外科開設に携わり、以降36年間にわたり同院で地域医療を実践しました。その間200

6年より院長、2012年からは統括管理監として病院経営の責任者として様々な課題に取り組みました。院長として病院の移転新築病院名を「大田原」から「那須」に改称したことは今でも忘れることはできません。また「医療は医政から」という信念の基、医師会活動にも取り組み、2010年からは栃木県医師会の役員として活動しました。2019年から日本赤十字社医療事業推進本部長に就任し、医療を取り巻く厳しい環境のなか全国91病院の運営責任者として業務を担い、2020年新型コロナウイルス

症の世界的パンデミックに際しては病院グループが一丸となって日本赤十字社の使命を果たしました。2022年からは日本赤十字社特別参与、医療調整監として三位一体改革のなか全国の地域医療を守るために努力しています。



向井 千秋 (旧姓：内藤) (56回)

一方、子どもたちは既にそれぞれ独立しているのに(長男夫婦は二人とも歯科医、長女夫婦は二人とも心療内科医、孫三人)、愚生は愚生らしく気楽と言えは気楽な余生を送っているとも言えそうですが…。結局、細々と執筆活動に励み乍ら能天気にごしてあります。

病気で困っている人の役に立ちたいと医師を目指し、地球を自分の目で見たくて宇宙飛行士に、人材育成が大事と思い大学に…と、やりたいことをやっているうちに「光陰矢の如し」です。少年老い易く学成り難しを日々実感しています。100歳になる母に健康でいて欲しいとヨガを勧め、私も付き添いで一緒にヨガを始めました。人生100年時代に向けての準備中という日々です。



鈴木 暁

(56回)

私は現在、原宿リハビリテーション病院へ勤務している。去年暮れ、あるフランス人からメールが届き、年末年始に東京へ行くから案内してくれとのこと。現代彫刻家セザール Cesar の娘、カロリーヌ Caroline で 14 歳の息子『ソラ』も一緒。希望は瀬戸内海に浮かぶ直島にある一連の安藤忠雄設計の建築群の訪問で、ソラはジブリ美術館の見学を熱望。カロリーヌは心臓血管外科から 1986 年に南仏ニース大学へ留学した時から知り合い。セザールとは二人だけでピカソの展覧会に行ったこともある。直島の訪問は年末年始の事情で断念させ、原宿、表参道の安藤忠雄設計のラ・コレツツイオーネ、表参道ヒルズ等を紹介した。原宿リハビリテーション病院も案内し、私の 6 階病棟から眼下に広がる丹下健三設計の 1964 年東京オリンピック使用の代々木競技場の雄姿を堪能した。1 月 3 日は雷門を

くぐり大変な人ごみの中を浅草寺へ向かった。整然と流れていく人並。最後は百円硬貨を賽銭箱へ願いを込めながら投げた。彫刻の森芸術文化財団はセザールの彫刻、『親指』と『ヴィルタヌーズの勝利』を保有し『箱根彫刻の森美術館』は後者を野外展示している。父親の作品に対面のため、1 月 6 日にこの美術館へ案内し、カロリーヌは学芸員からの作品の補修と財団保有の高松宮殿下記念世界文化賞のシリーズの企画の要望に対し快諾した。セザールは彫刻部門で 1996 年にこの賞を安藤忠雄（建築部門）とともに受賞。1 月 7 日はソラの来日の目的である三鷹の森ジブリ美術館へ向かった。パリから予約できずパニックのところ私がローンWEBサイトから何とか予約した。この美術館はどの世代にも楽しめる企画がいろいろあり、ソラは夢心地、母上も大喜び。フランスの子供達にとり宮崎アニメは羨望の的、ソラは『千と千尋の神隠し』をはじめ、すべての作品を熟知している。その夜パリへ飛び立った。



セザール「ヴィルタヌーズの勝利」1965年 彫刻の森美術館蔵

刀林会 新入会者紹介



がん・感染症センター 都立駒込病院 呼吸器外科部長

中川 加寿夫 (73回相)

この度、刀林会へ入会させていただきます。その後、国立がんセンター中央病院レジデント(1997年6月)、静岡がんセンター(2002年6月)、国立がん研究センター中央病院(2001

2年3月)2024年2月にて、主に肺病外科診療に従事してまいりました。これまでの経験を生かし、東京都の肺病診療の発展に微力ながら貢献していく所存です。



埼玉医科大学 国際医療センター 小児心臓外科教授

帆足 孝也 (77回相)

この度刀林会へ入会させて頂きました。帆足孝也と申します。私は平成11年に大阪大学を卒業後一貫して先天性心疾患分野でのトレーニングを、平成19年からの1年半のミシガン大学ヘルスシステム(CS.Mott)小児病院勤務を含め受けてきました。平成21年11月からの12年超に渡る国立循環器病研究センター小児心臓外科の勤務を経て令和5年

5月より埼玉医大国際医療センター小児心臓外科を率いております。今後ともどうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



公立福生病院

杉田 篤紀 (79回相)

この度は入会の承認をいただき厚くお礼申し上げます。私は愛知県出身で岐阜大学医学部を卒業しました。日本大学救命センターで初期研修を終え、徳洲会の外科でチーフレジデントを修了した後は12年間日本大学救命センターで救急外科医をしてまいりました。2022年より国際親善総合病院

で働かせていただき、現在は公立福生病院で熱意に満ちた先生方に囲まれ精進しております。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



那須赤十字病院 外科

石井 智 (86回相)

この度、歴史ある刀林会への入会にご許可いただき、感謝申し上げます。那須赤十字病院外科の石井智と申します。

私は獨協高校から北里大学医学部に進学、卒業し、同大学の外科学に入局いたしました。大田原赤十字病院に2年間の出向、研修をさせて頂きました。大学院を修了後、上部消化管



NHO 栃木医療センター 小児外科・小児泌尿器科

小林 めぐみ (86回相)

この度、歴史ある刀林会へ入会させていただきました。心より感謝申し上げます。私は岩手県出身で、岩手県立盛岡第一高校から岩手医科大学に入學、卒業後は岩手医科大学外科学講座に所属しながら国立成育医療研究センター、自治医科大学で研修を行いました。昨年1月より現在のNHO 栃木医療センター小児外科

小児泌尿器科にて勤務しており、慶應義塾大学小児外科の教育関連施設として地域医療に貢献しながら若手育成と専門分野を進展させるべく、精進を重ねていく所存です。今後とも御指導ご鞭撻のほどよろしくお願



那須赤十字病院 外科

川口 英之 (87回相)

この度は歴史ある刀林会への入会をご許可頂き、心より感謝申し上げます。那須赤十字病院外科の川口英之と申します。

自治医科大学出身で、義務年限で現在の病院へ派遣となり、義務年限の終了とともに就職した形となります。栃木県北は外科救急の受け入れ先が少なく、慶應から派遣された先生方が尽



済生会宇都宮病院
呼吸器外科

堀 龍太郎
(91回相)

この度、刀林会に入会させて
いただきました。済生会宇都宮病院呼吸器外科の

堀龍太郎と申します。佐賀県の東明館高校を卒業後、芸術系の大学で写真を学んだ後、帝京大学医学部に進学しました。2012年に卒業した後、初期臨床研修後期研修からシニアスタッフに至る現在まで、済生会宇都宮病院に勤務しております。呼吸器外科医としての主題は、ロボット手術、呼吸器インターベンション、3D画像解析の可能性の追究です。若輩者ではございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



済生会
横浜市東部病院
呼吸器外科

村岡 祐二
(94回相)

この度刀林会へ入会させて
いただきました。済生会

横浜市東部病院呼吸器外科の村岡祐二と申します。私は長野県出身で、伊那北高校から信州大学医学部に入學、卒業後は長野県内で初期研修を行いました。その後国立がんセンター中央病院にて研修を行い、当時スタッフであられた朝倉教授にお声掛けいただき、さいたま市立病院呼吸器外科、また現在の済生会横浜市東部病院にて勤務の機会を頂戴いたしました。まだまだ若輩者でございますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



慶應義塾大学医学部
外科(小児)

出口 晴教
(98回相)

鹿児島生まれ、鹿児島育ち、鹿児島大学出身の出口晴教です。4月より慶應小児外科で藤野先生にお世話になっております。明治維新に代表されるように、鹿児島には時代を切り拓く力強い精神があります。この精神を胸に、慶應で学んだ知識と技術を活かし、今後の小児外科医療の発展に貢献できるように日々努力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

101回生・101回相当



上田 裕貴

出身高校：筑波大学附属駒場高校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：サッカー部

この度慶應義塾大学外科学教室に入会させて頂きました。上田裕貴と申します。太田記念病院での初期研修を終え、現在は足利赤十字病院にて修練を積ませて頂いています。先輩方から温かいご指導を頂きながら日々充実した研修生活を送らせて頂いております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



植松 亜樹

出身高校：桜蔭高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：弓道部

この度慶應義塾大学医学部外科学教室に入会させて頂きました。植松亜樹と申します。初期研修は済生会宇都宮病院にて修了し、慶應義塾大学病院での半年の研修ののち現在公立福生病院で外科研修をさせて頂いております。諸先輩方から熱心なご指導を賜り、充実した日々を過ごすことができております。今後とも精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願申し上げます。



大沢 桃香

出身高校：仙台白百合学園高校
出身大学：岩手医科大学
部活動：バドミントン部

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局いたしました大沢桃香と申します。初期臨床研修を国立病院機構埼玉病院で終了し、現在は平塚市民病院にて修練を積ませていただいております。先生方の温かい指導のもと充実した日々を過ごしております。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願申し上げます。



大西 一平

出身大学：山梨大学
慶應義塾大学外科学教室
に所属しております大西一平と申します。出身大学は

山梨大学で、順天堂大学医学部附属順天堂病院で初期研修を修了致しました。現在は外科学の中でも特に消化器外科医として研鑽を積みたいと考えております。慶應義塾で外科医を志した理由は、ロボット手術を積極的に導入している点に強く惹かれたためです。諸先輩方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願申し上げます。



勝又 佳織

出身高校：千葉県立千葉高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：バスケットボール部、全塾囲碁部

本年度より慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させて頂きました。101回

生勝又佳織と申します。初期研修を済生会横浜市東部病院にて修了し、その後半年の大病院研修を経て、現在は東京医療センターにて研鑽を積ませて頂いております。多くの手術や患者様と向き合いながら大変充実した日々を過ごしております。

伝統ある本教室で学ばせていただけることを大変嬉しく思います。努力を惜しまず何事にも全力で取り組みたいと思っておりますので、どうぞ今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願申し上げます。



鴨 政充

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させて頂きました鴨政充と申します。刀林会の一員になれ

ましたこと誠に光栄に存じます。初期臨床研修を国立病院機構埼玉病院にて修了し、現在は済生会宇都宮病院にて修練を積ませて頂いております。諸先輩方より熱心なご指導を受け賜りまして、日々充実した生活を過ごさせて頂いております。刀林会の名に恥じることのない外科医になるべく精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願申し上げます。



近藤 航太

出身高校：宇都宮宮高校
出身大学：新潟大学
部活動：陸上部

はじめまして。近藤航太と申します。新潟大学卒業、済生会横浜市東部病院での初期研修を経て、この度慶應義塾大学医学部外科学教室に入局させて頂きました。今年度の半年間、慶應大学病院で働かせて頂きました。多くの出会いに恵まれた。非常に刺激的で楽しい毎日でした。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



近藤 慎一郎

出身高校：慶應義塾高等学校
出身大学：慶應義塾大学

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入会させて頂きました近藤慎一郎と申します。静岡県立総合病院での初期臨床研修を修了し、慶應義塾大学病院にて半年間勤務をさせて頂いた後、現在は練馬総合病院にて修練を積ませていただいております。刀林会の一員という恵まれた環境に感謝しつつ、諸先輩方に少しでも近づけるよう日々精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願申し上げます。



佐藤 永規

出身高校：早稲田高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：野球部、I M A

この度、慶應義塾大学医学部外科学教室に入局いたしました。佐藤永規と申し

私は初期臨床研修を足利赤十字病院で修了し、半年間の大学研修を経て現在は多摩丘陵病院にて研鑽を積ませていただいております。自身の手で手術が出来る喜びを噛み締めながら日々診療にあたりております。常に向上心を持ち、日々歩みを止めることなく全力投球し続けます。至らない点も多々あることと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願申し上げます。



實方 秀道

この度慶應義塾大学医学部
外科科学教室に入局いたしました
実方秀道と申します。
横浜市立市民病院での初期
研修を終えて現在は湘南
東部総合病院で研鑽を積ま
せていただいております。
多くの手術、手技に触れな

から日々研鑽を積んでおり
ます。今後ともご指導ご鞭
撻のほど何卒よろしくお願
いいたします。



高田 英里

出身高校：日比谷高等学校
出身大学：名古屋立大学
部活動：MELSC

この度、慶應義塾大学医
学部外科科学教室に入室させ
ていただきました高田英里
と申します。初期研修を愛
知県岡崎市民病院で修了し、

現在は日本鋼管病院にて修
練を積ませていただいております。
先生方からの温かいご指
導を賜りながら、充実した
日々を過ごしております。
今後とも精進してまいります
ので、ご指導ご鞭撻のほ
ど何卒よろしくお願ひ申し
上げます。



高橋 優太

出身高校：熊谷高校
出身大学：名古屋大学
部活動：剣道部

初めまして、この度慶應
義塾大学医学部外科科学教室
に入室させて頂きました。
高橋優太と申します。上尾
中央総合病院での初期臨床
研修を終え、現在はJCH

O埼玉メデイカルセンター
にて修練しております。今
年から半年間慶應義塾大学
病院にて外科研修をさせて頂
きました。素晴らしい
先生方と環境であることを
実感いたしました。今後と
もご指導ご鞭撻を賜ります
ようよろしくお願ひ申し上
げます。



陳 鋳力

出身大学：上海交通大学

この度、慶應義塾大学医
学部外科科学教室に入室しま
した。陳鋳力と申します。
沖繩協同病院での初期研
修後に、慶應義塾大学病院
で半年間の外科ローテー
ションを終え、現在は太田

今後とも精進して参りま
す。ご指導ご鞭撻のほどよ
ろしくお願ひ申し上げます。



坪田 紗也子
(旧姓：越田)

出身高校：慶應義塾
女子高校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：硬式庭球部

この度、慶應義塾大学医
学部外科科学教室に入室しま
した。坪田紗也子と申しま
す。東京都済生会中央病院
での初期臨床研修、慶應義

塾大学病院での外科研修を
終え、現在は国際医療福祉
大学三田病院にて研鑽を積
ませていただいております。
先生方からの温かいご指導の
もと、充実した研修生活を
送っております。日々成長
できるよう精進して参りま
すので、ご指導ご鞭撻のほ
ど、何卒よろしくお願ひ
いたします。



日浅 光陽

出身高校：私立愛光高校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：硬式庭球部

この度、慶應義塾大学医
学部外科科学教室に入室させ
ていただきました。101
回生の日浅光陽と申します。

済生会宇都宮病院にて初
期研修を修了し、半年間慶
應義塾大学病院にて勤務さ
せていただいた後に、現在
は東京都済生会中央病院に
て研鑽を積ませていただい
ております。
先生方の熱心なご指導の
もと、充実した毎日を通じ
ております。偉大な先輩
方のような外科医になれる
よう日々精進していく所存
です。まだまだ未熟者では
ございますが、今後とも先
生方にはご指導ご鞭撻を賜
りますよう何卒よろしくお
願ひ申し上げます。



古迫 理彩

出身高校：加藤学園
出身大学：浜松医科大学
部活動：硬式テニス部、
オーケストラ部

この度、慶應義塾大学医
学部外科科学教室に入室しま
した。古迫理彩と申します。
静岡赤十字病院での初期
臨床研修を終え、現在も静
岡赤十字病院で研鑽を積ま
せていただいております。
先生方からの熱心なご指
導の元、日々充実した研修
生活を送っております。
今後とも精進して参りま
すので、ご指導ご鞭撻のほ
ど何卒宜しくお願ひ申し上
げます。

頂きました松川雄太と申し
ます。
足利赤十字病院にて初期
研修を行い、半年間の大学
病院研修を経て、この10月
より稲城市立病院にて研鑽
を積ませていただいております。
諸先輩方から温かいご指
導を賜り、刺激的で充実し
た専修医生活を送っており
ます。
外科医として少しでも成
長できるように、精進して参
りますので今後ともご指
導、ご鞭撻の程、何卒宜し
くお願ひ申し上げます。



松川 雄太

出身高校：筑波大学附属
駒場高等学校
出身大学：慶應義塾大学
部活動：硬式庭球部

この度慶應義塾大学医学
部外科科学教室に入室させて

診療体系グループ紹介

心臓血管外科



慶應義塾大学医学部
外科(心臓血管) 教授
志水 秀行 (65回)

心臓血管外科は、1952年に臨床における第1例目の手術(動脈管閉存症)が行われて以来、大動脈疾患、後天性心疾患、先天性心疾患の3本柱を、それぞれの専門スタッフが担当し、切磋琢磨して発展してきました。近年、心臓血管外科の領域でもほかの外科領域全般と同様、手術の低侵襲化とともに治療戦略が大きく変化してきましたが、当科は早くから各領域で低侵襲治療にも積極的に取り組み、専門性の高い最先端手術を行い、また、他診療科・他領域と幅広く連携することによって、個々の症例に最適な治療選択肢を提供できる体制を整えてきました。大動脈領域では、基部置換、弓部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤など高難度手術で世界に誇る治療成績を達成してきたことに加え、ステントグラフト治療の代表的施設としても認められ、複数の新規デバイスの国際治験にも参加する機会を得ました。弁膜症領域では、慶應の得意とするMICS(低侵襲心臓手術)をStone-Rangeアプローチなど新しい術式の開発によって発展させ、昨年からロボット支援下僧帽弁形成術を導入しました。経カテーテルの大動脈弁置換術(TAVI)は、循環器内科とのハートチームで行っており、全国トップクラスの症例数を誇っております。冠動脈バイパスは多枝病変・重症例に対する手術を積極的に取り組んでいます。先天性領域は、小児病院に症例が集中する昨今の厳しい状況の中で、豊富な経験と周術期管理を含め高い総合力を有する当院の特徴を生かし、小児病院では扱えない成人後の再手術などを積極的に取り組んでいます。また、一般・消化器外科、呼吸器外科をはじめ、外科系診療科との合同で、心大血管に浸潤した悪性腫瘍に対する拡大手術など、心臓血管外科を有さない専門病院では手術不能な悪性腫瘍に対する高難度手術も行っています。2024年11月現在、大准教授 伊藤 努(68)、専任講師 山崎真敬(78)、木村 成卓(79)、助教 高橋辰郎(81)、松本順彦(88相)のスタッフ6名と、チーフレジデント3名、レジデント5名、大学院生2名の体制で活動しています。2023年の手術実績はMajor surgeryが531例、手術死亡率1%以下であり、質量ともに良好な結果でした。これからは、前述の3本柱の更なる発展を目指すと共に、4本目の柱として、重症心不全に対する外科治療を確立したいと考えています。これまで、メデイカルスタッフの教育や院内体制の構築など準備を進めてきましたが、ようやく第一歩となる植込み型補助人工心臓管理施設の資格を取得できる見込みです。全国的に外科を志望する若手の減少が問題となっており、幸い当科では安定的に新入局者があり、まだ十分とは言えませんが、関連病院を含めた人事状況、働き方改革への取り組みの状況は改善しつつあります。これからも、多くの仲間と共に当科の特徴を生かした一層の発展を目指し、また、何よりも、関連施設とともに、実力のある優れた若手を育成したいと考えています。

追悼記

石飛幸三先生(40回)を偲んで

松本 賢治(56回)

二〇二四年七月八日、小職にとって石飛幸三先生の訃報は正に青天の霹靂であった。

彼は広島県の出身で、広島大学附属東千田高校から慶應義塾大学へ入学している。入試では得意な物理が満点だったとは、奇しくも本人談である。

生家は、広島市内で呉服問屋を営んでいたということである。だから、いわば彼は呉服問屋の若旦那だったということになる。

そんな石飛先生と小職が初めて出逢ったのは、一九七八年のフレマン出張時の東京都済生会中央病院でのことであった。当時の病院は経営問題で大きく揺れており、職員労働組合も決して一枚岩ではなくて、石飛先生が第二労働組合を組織したりしている状況であった。小職はそんな中でお調子者だったので付和雷同的に石飛先生に右へ倣え状態であった。病院玄関で第二労働組の旗を振り廻したりして、NHK朝七時のトップニュースで大きく報道されたりもした。

しかしその後紆余曲折があったものの病院は何とか落ち着きを取り戻して、石飛先生も通常業務に復帰するようになった。しかし、

彼は副院長として執行部内では何かと軋轢があったようである。

だが彼は当時より周囲から慕われ、「トビさん」とか「トビゾー」と綽名されていた。

小職はこの頃から半強制的に石飛先生に同伴させられ、第一回血管外科症例検討会に参加したりしていた。そして小職は大学へ帰室後これも何となく血管班に所属することになった次第である。そういう意味では、彼は小職の外科医としての将来を決定付けたと言えるかもしれない。ではあるが、彼からああしろこうしろと指図された覚えは全くなく、血管班に所属した後も放任主義だったように記憶している。なお、彼のモットーは「血管外科医はヒロイズムを求めているのではない」というものであったが、ついでヒロイズムに陥る傾向にある血管外科医には肝に銘じるべき箴言だと痛感させられた。

彼はともかく多芸多才で、学生時代は競走部と自動車部に所属していたこともあった。そうである。そういう彼の愛車はポルシェやベンツであったが、多少の不具合は自分で修理してしまっていた。

た。競走部で鍛えた脚力も健在で、病院の運動会でも百メートル走で優勝したりもしていた(当然乍ら、小職も彼には敵わなかった)。

何しろ彼は手先が器用で、プレティスモグラフィでも自ら考案して作製してしまつたほどである(これが結局、彼の学位論文となった)。さらに巨人軍のエースピッチャーの鎖骨下動脈手術を成功させて、マスメディアに大きく取り上げられたことも話題となった。一般論文でも血管外科系学術雑誌最高峰の Journal of Vascular Surgery (JVS) に原著論文が3篇も採用されている。国際学会での発表も枚挙に暇なく、正に時代を先取りした国際人であった。因みにロンドンで開催された学会では、早朝から起こされてジョギングに付き合わされて閉口したこともあったが…。ただ、英会話は怪しいフランス人女性に習っていたせいとか、かなりのブロークイングリッシュであった。一方、二年間の西独留学の経験を活かしてドイツ語はほぼ完璧に流暢な会話を熟していた。ただ、手術に関しては彼の年代に有り勝ちな「上手い外科医の手術を観ていれば、それだけで手術は上達

する」という主義だったので決して人には術者を任せなかつた。何しろ下肢静脈瘤の手術でさえ、自分自身で執刀していた有り様であった。小職がチーフ出張で静岡赤十字病院に勤務していた際、内頸動脈狭窄症の患者に対する手術で彼を招聘した時も、当然小職に執刀させると思いきや彼はあっさり自ら術者を務めてしまつた。事程左様に、彼は手術には異様なほど固執していた。よって小職はその反動で、手術は本人にやらせなければ覚えられないと信じるようになりレジデントに執刀させるようになった訳である。

学会では当時、彼は内頸動脈狭窄症に対する血栓内膜切除術で売り出し中で、その頃としては画期的な手術法を提示していた。ただし、札幌市で開催された日本外科学会総会では目立ち過ぎだと周囲からのやっかみもあった。何しろ彼は多方面で多彩な才能を発揮した人だったので、血管外科から離れた後も「平穩死のすすめ」で一躍全国的に名を馳せることになったりもした。

最後に勤務した芦花ホームでも、いち早く患者の輸液量の改善を図るなど画期的な改革に取り組んでいる。ともかく、彼は先ず既存の事実疑問を呈する性格であつたのは万人の認めるところだろう。二〇二三年十二月二十二日には第七二回東京都社会福祉大会において、彼は社会福祉施設役員功労者として東京都より表彰されている。

石飛幸三先生は生来天衣無縫で心身ともに強靱だったので、軽く100歳くらいまでは長生きするだろうと信じられていたので、小職の個人的な喪失感の大きさは計り知れないものがある。今年の年賀状でも、漸く米寿を迎えましたとご挨拶を頂いたばかりであつたし…。

衷心より彼のご冥福をお祈りする次第だが、彼のことだから恐らくあの世でも早速何をしようかなと腕まくりしているような気がしてならない。

(合掌)



2009年12月29日開催の血管班忘年会。前列左より3人目が石飛幸三先生。松本賢治(筆者)、北川雄光教授、尾原秀明准教授と続く。

慶應義塾大学病院 外来 外科担当表

初診外来 (午前)

一般・消化器外科

腫瘍センター ●北川雄光

八木洋

阿部雄太

尾原秀明

北郷実

川久保博文

小児外科

藤野明浩

狩野元宏

交代制

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

加藤源俊

山田洋平

●印 教授

○印 診療部長

○印 診療副部長

●特殊外来 (午前)

月 血管

肝臓・移植

尾原秀明

北郷実

岡林剛史

高橋麻衣子

竹内優志

阿部雄太

中野容

尾原秀明

藤村直樹

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

尾原秀明

編集委員

委員長

副委員長

顧問

顧問

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

計 報

編集後記

パリオリンピックで日本は多くのメダルを獲得し、過去最高の3位という成績を取った。他にも大谷翔平選手をはじめ多くの日本人スポーツ選手が海外で活躍している。トレーニング法や指導法が進歩しているのに加え、個々のメンタル面での成長も大きいのだろう。最近の若い世代 (Z世代) はデジタルネイティブとも呼ばれ、グローバルでの交流や情報共有に抵抗がない。外科領域においても AI やロボット手術などが発展している。Z世代のポテンシャルを生かすような教育を提供することは非常に重要であり、何か良い方法を見つけたら日々模索している。

N・K

令和7年度刀林会全員集会 (総会) のお知らせ

日時 令和7年6月7日 (土) 16時半開始
場所 明治記念館
講演会 17時半開始
日清食品ホールディングス CEO 安藤宏基様
懇親会 18時半開始

皆様のご参加をお待ちしております。

刀林会ホームページがアクセスしやすくなりました。

外科学教室 ホームページにアクセス

http://keiosurg.umin.jp/

同窓会 をクリックしてください。

ID、パスワードの入力の必要はございません。
よろしくお願いたします。

刀林会会員管理システムについて

郵便物発送先、一斉メールにてのお知らせなど「刀林会会員管理システム」にておこなっております。

メールアドレス、ご勤務先、ご自宅住所などのご変更があった場合は、ご自身にてアップデートしていただくことをお願いたします。

開業についてのお知らせ

開業の際は、同窓会へご連絡をお願いいたします。
記念に刀林会よりペナントを進呈いたします。
よろしくお願いたします。

<刀林会 事務局>
〒160-8582 新宿区信濃町 35
慶應義塾大学医学部外科同窓会事務局
TEL: 03-5363-3800
FAX: 03-3359-9130
tourin-h@keio.jp